

令和元年度

事業報告書
(案)

社会福祉法人 北星会

【事業概要】

1. 社会福祉法人北星会の状況

令和元年度は前年度に引き続き、「医療」と「介護」の連携実現のために、各事業所間の横のつながりを重視し、法人一体となった事業の推進を行ってきました。

特に、令和元年度は長年の課題となっていた特別養護老人ホーム天橋園の事業の見直しに伴う廃止とその後の事業展開について計画し、各拠点からの協力の下で、リニューアルする天橋園として新築工事に着手することができました。また、新規の事業受託として栗田のびのび放課後児童クラブの運営にも取り組み、初めての事業でしたが関係職員と調整を取りながら取り組むことができました。

なぎさ苑においては経年劣化等による設備更新について補助金を活用しながら、ご利用者や職員の環境整備に努め、生活や働きやすさの向上につなかりました。次年度は天橋の郷においても取り組む予定にしています。

与謝の園の移転・建替計画については、与謝野町との協議の中で桑飼小学校跡地に移転することで概ね了解を得る事ができましたので、次年度は具体化する一年となり、職員間でコンセプトを作り上げながら建物設計に反映させていきます。

(ア) 天橋園

平成31年	4月	介護保険法	介護老人福祉施設	指定認可期間の満了
令和元年	9月	老人福祉法	特別養護老人ホーム天橋園	廃止
令和元年	11月	特養天橋園	園舎解体工事	着手（1日）
令和2年	1月	特養天橋園	園舎解体工事	完了（31日）
令和2年	2月	新築工事	契約	（18日）
令和2年	2月	新築工事	着手	（19日）

(イ) 与謝の園

令和元年	8月	与謝野町と特養与謝の園移転計画確認（桑飼小学校跡地に移転）
令和2年	3月	与謝野議会において特養与謝の園移転計画は概ね了解を得る。

令和元年度 社会福祉法人北星会

法人本部 事業報告書

【年度統括】

令和元年度より天橋園拠点区分の事務部門を法人本部に統合し、より効率よく事務処理が進められるように取り組みながら、法人本部機能の充実を図る為に、毎月、理事長出席のもとで本部事務局運営委員会を開催し、本部の体制強化について検討してきました。

法人運営においては、評議員会・理事会を基本とするガバナンス強化、人事・雇用・賃金・労務等のより良い職場環境の実現に取り組むと共に、天橋園群の改修事業及び与謝の園移転建替計画について、行政機関・評議員会・理事会において提案・検討を進めてきました。

【事業報告】

概 況

本部機能の強化を目的に、人事・労務の一元化をはじめ、勤怠管理システムを活用した給与計算処理の効率化も図りました。また、若手人材確保にむけた取り組みの中では他法人との連携による若手介護職員の魅力発信に努めました。結果的に採用までは繋がらなかったものの、北星会の若手介護職員が「自分たちの仕事の魅力」について発表する機会を得たことは若手職員の育成にとっても良い影響を与えることが出来ました。

事業運営面では、今年度から新規事業の受託として「栗田のびのび放課後児童クラブ」に取り組むと共に、介護事業の種別ごとの集まり（連絡会議）は、各事業所の状況確認とより効率良く事業展開できるように開催し、各事業所のサービス向上に繋がる機会となりました。

理事長をはじめ各理事および施設長との密なる連絡体制の構築と共に、法人事務局の総務課・事業課・財務課、それぞれの課において業務を行うことで、法人の様々な課題に可能な限り迅速かつ具体的に取り組むことができるように努めました。

また、月2回の施設長会議では、各施設と法人本部の情報共有を図り、各施設の運営状況、人事・雇用・賃金・労務、職員育成などにおける課題に取り組んできました。

天橋園施設群施設整備事業では、補助金や各拠点及び外部からの借入金などの資金計画の調整を行い、工事着手することができました。

総務課

令和元年度は、一元化した人事・労務・給与の安定した業務遂行と、人材確保に向けた各種就職説明会の出展・広報活動を進めてきました。

また、京都府が推進する福祉業界育成事業への参加を通して、若手職員による福祉職場の魅力発信の取り組みをすすめました。

1. 人事・採用・労務・給与関係

- ① 昨年度より取り組んできた人事・労務・給与業務の一元化について、現状を把握し、今後の方向性を検討しました。
- ② 勤怠管理システム（クロノス）の活用により、年次有給休暇や時間外勤務、出退勤等の勤怠情報を集計し、給与計算処理の効率化を図りました。
- ③ 就職情報サイトへの新規の掲載や京都市会場への出展を含めた就職フェアへの参加、見学、実習及びインターンシップの受け入れにより、職員採用に繋がるように取り組みました。

2. 広報活動の充実

- ① 見やすくデザイン変更した広報誌「きらめき」の発行で、地域の方や求職者に法人の魅力が伝わるように工夫し、法人の取り組みについて広く知ってもらえるように努めました。
- ② 法人が求める人材を獲得するために、採用のための広報活動（ホームページの管理・運営、フェイスブック等の SNS を活用した求人情報の PR 等）を行いました。

3. 規則規程関係の整備

- ① 職員が安心して業務を行える環境整備のための、給与規程、就業規則及び各種管理規程の改定決議を受け、必要な整備を行いました。
 - ・ 定款施行細則の一部改定（理事会で選任する施設長等の範囲の変更）
 - ・ 就業規則の一部改定（管理監督者に該当する役職の変更）
 - ・ 給与規程の一部改定（賞与の出勤率計算期間を記載）
 - ・ 給与規程の一部改定（退職金制度の統一による内容の変更）
 - ・ 給与規程の一部改定（就業規則に規定する管理職手当の変更）
 - ・ 無期契約転換職員就業規則の一部改定（拠点間の異動要件追加）
 - ・ 役員等報酬規程の改定（報酬支払の計算期間の記載）
 - ・ 建築工事等請負業者指名要綱の制定
 - ・ 建築工事等指名業者選定委員会設置要綱の制定
 - ・ 就業規則の一部改定（年間休日数の変更）
 - ・ 経理既定の一部改定（新拠点設定、小口現金上限見直し）

4. 法人一括契約等による効率的な費用管理

- ① 各施設の設備管理にかかるコストを抑えるために、法人一括での施設総合管理について検討し、複数年度での契約を締結しました。
- ② 法人施設間通話無料化のための環境整備（機器取付、契約変更）を行いました。

事業課

令和元年度事業課では、以下の事業を行ってきました。

1. 天橋園群建替え事業
2. 与謝の園建替え事業
3. 北星会法人研修事業
4. Recruit（採用）活動事業
5. 栗田小学校放課後児童クラブ事業
6. 配食サービス事業
7. 介護予防・日常生活支援総合事業
8. 北星会サービス連絡会議

1. 天橋園群建替え事業

特別養護老人ホーム天橋園は、令和元年9月30日をもって廃止認可となりました。11月より特養部分の解体工事がはじまり、1月末をもって第1期の解体工事が終了いたしました。2月から行う予定であった建築工事は、設計変更と福祉医療機構からの融資決定が遅れ、2月中旬からとなりました。令和3年3月末の完成を目指して現在工事がすすんでおります。

事業課としましては、新しく整備されるグループホーム及びデイサービスに導入いたします設備・備品の選定を行い、導入準備を進めております。

2. 与謝の園移設・建替え事業

定期的に行っております天橋園群建替え事業の準備室会議に与謝の園施設長、事務長が参加され、与謝の園移設・建替えに係わる検討をすすめております。今後は、与謝の園移設・建替え準備室を早期に立ち上げ、建替えコンセプトを具現化できる建物となるよう法人本部として協力していきたいと考えています。

3. 北星会法人研修事業

令和元年6月7日にリヴドゥコーポレーション福祉ビジネス研究所客員研究員福野初夫氏を講師に迎え、ユニットリーダー、主任、副主任を対象に「リーダー論 リーダーに必要な考え方や行動とは」を行いました。同日業務終了後に与謝の園において、全職員対象に「現場に必要な観察力とは」を行いました。

4. Recruit（採用）活動事業

令和元年度のRecruit（採用）活動事業としては、総務課と連携しながら各就職フェアへの出展、施設見学、個別就職説明会等を行いました。

4月3日 Recruit チーム会議開催

5月12日 FUKUSHI 就職フェアに出展

6月6日 Recruit チーム会議開催
 7月1日 高等学校訪問
 7月23日 施設見学(高校生)
 8月2日 施設見学(高校生)
 8月7日 採用試験(大学)
 京都ジョブ博たんご就職フェアに出展
 9月2日 施設見学(高校生)
 9月16日 採用試験(高校生)
 9月17日 介護職会社説明会(加悦谷高校1年生)
 10月17日 施設見学(大学生)
 10月18日 福祉即戦力人材養成科 合同事業所説明会
 11月11日 なぎさ苑 PT 施設見学
 11月15日 天橋園 GH、DS 施設見学
 11月19日 与謝の園 施設見学
 11月～3月 宮津ハローワーク個別就職説明会
 2月4日 合同就職説明会

5. 栗田のびのび放課後児童クラブ事業

平成31年4月より宮津市から委託を受けて栗田小学校の敷地内に建てられました児童クラブにおいて「栗田のびのび放課後児童クラブ」を行いました。

児童数は少しずつ増えており、令和2年度には登録者が11名となります。

実績報告

月	実児童数	男	女	学年の内わけ	開設日数	延児童数
4	4	3	1	1年生4名	19	49
5	3	3	0	1年生3名	18	45
6	4	3	1	1年生4名	20	68
7	4	3	1	1年生4名	23	74
8	6	3	3	1年生6名	17	79
9	6	3	3	1年生6名	19	89
10	6	3	3	1年生6名	21	99
11	6	3	3	1年生6名	21	91
12	7	4	3	1年生7名	20	106
1	7	4	3	1年生7名	19	95
2	7	4	3	1年生7名	20	91
3	8	4	4	1年生7名 4年生1名	21	125
合 計					238	1011

6. 配食サービス事業

平成 31 年 4 月から府中・日置・養老地区への配食サービスをなぎさ苑が委託を受け、実施しておりましたが、8 月からは利用希望者がいなくなり、中止となりました。

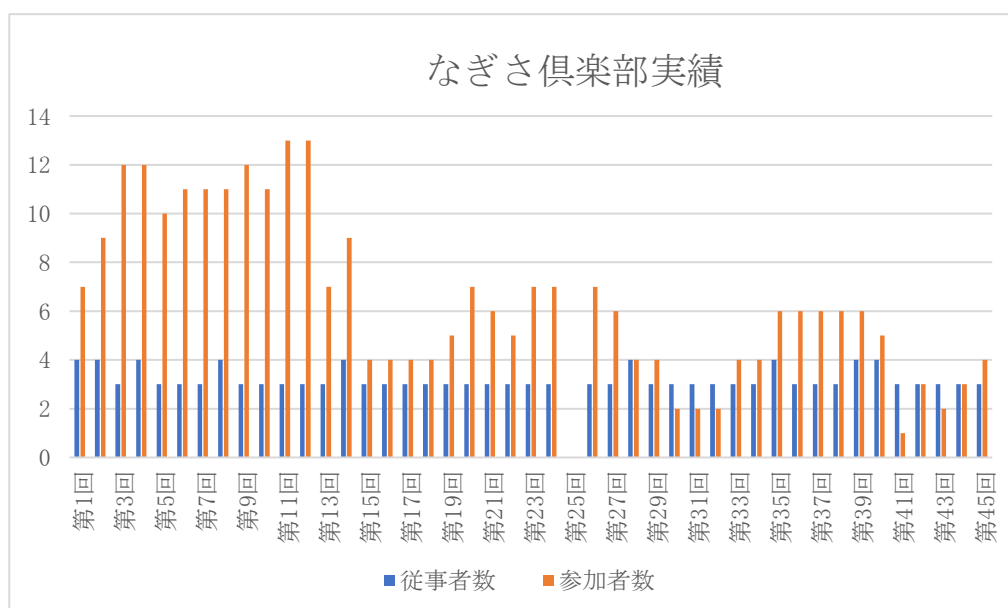
栗田・由良地区は天橋の郷から土曜日・日曜日に配食サービスを行っております。

配食サービス実績

月	なぎさ苑	天橋の郷	
地域	宮津市北部	栗田	由良
4	1 5	3 6	5 4
5	9	3 2	4 4
6	8	4 0	5 5
7	9	2 4	4 2
8	0	3 4	5 5
9	0	4 6	4 5
1 0	0	4 2	3 7
1 1	0	4 1	4 0
1 2	0	4 2	4 7
1	0	4 2	3 8
2	0	4 1	5 1
3	0	4 2	5 1
合計	4 1 食	4 6 2 食	5 5 9 食

7. 介護予防・日常生活支援総合事業

宮津市より委託を受けて行っておりました介護予防・生活支援サービス事業第 1 号通所事業（通型所サービス C）なぎさ倶楽部ですが、平成 29 年より実施してまいりましたが、利用数が思っていたより増えず、令和元年度をもって終了することとなりました。利用数が増えない原因として考えられることは、1. 対象者となる方が限定されていた事。（①要支援認定を受けた方で現在、何もサービスを利用されていない方、②基本チェックリストによる事業対象者）2. 3～6 か月の短期間で実施しなければならず、通年の利用ができない事。以上の理由が考えられます。北星会としましては、今後も宮津市より事業委託の相談があれば、積極的に話を伺いながら北星会の有する人材、機能を活かして、地域に貢献できればと考えています。



8. 北星会サービス連絡会議

法人間の連携強化のために平成 30 年度から各サービスの担当者が集まり、意見交換を中心に行っております。

連絡会議実績

会 議 名	回数	内 容
北星会通所サービス連絡会議	2 回	各事業所の状況報告、意見交換
北星会相談員連絡会議	2 回	災害時法人間応援体制について
北星会訪問介護連絡会議	1 回	各事業所の状況報告 意見交換
北星会栄養・調理部門連絡会議	2 回	HACCP に関する意見交換など

財務課

昨年度より一元化した給与・賞与・各種保険料の計算・支払い業務等をより確実に行うとともに、各施設に的確な情報提供ができるよう財務課に求められる今後の業務について検討を行いました。

また、施設・事業所の老朽化に伴う建て替えや大規模修繕、設備・備品の更新等必要な資金を確保するため、資産・負債の状況を含めた経営状況を的確に把握し、施設長会議等への情報提供に努めました。

今後は各施設の財務状況を踏まえ、資産運用等も含めた提案を行っていきたいと考えます。

1. 会計処理

- ・平成 30 年度決算の精査及び令和元年度予算統括並びに補正予算に係る収支試算を行いました。
- ・施設毎に異なる会計処理（給食費等の計上）の統一化を図りました。

- ・新規事業（栗田のびのび放課後児童クラブ）に伴う新たな拠点区分の管理と特養天橋園事業廃止に伴う財産処分等を行いました。

2. 経営分析

- ・法人の資産・負債・純資産額を把握し、社会福祉充実算残額の算出と共に、法人の経営状況の把握に努めました。
- ・各拠点の収入および人件費・事業費・事務費等収支差額の把握と資産・負債を含めた法人全体の財務状況の把握に努めました。

3. 情報開示

- ・法人ホームページ及び財務諸表等電子開示システムを通じて、平成30年度決算の状況を開示しました。
- ・財務諸表等電子開示システムを通じて、平成30年度社会福祉充実残額および社会福祉充実計画を開示しました。

4. 天橋園施設整備に係る資金管理

- ・整備事業費の精査および資金調達（法人内資金調整・借入金調整等）を行いました。
- ・借入金償還計画（施設整備後における中期予算の提案）の策定を行いました。

法人本部関係業務実績

年	月	日	業 務 事 項
平成31年	4月	3日	リクルートチーム会議
		4日	北星会 各拠点職員代表者 規則等の変更説明
		9日	北星会施設長会議、
		9日	グループホーム天橋の家 運営推進会議
		12日	本部会議
		14日	クリーンはしたて ボランティア参加
		23日	北星会施設長会議
		24日	本部事務局運営委員会
		25日	本部会議
令和元年	5月	8日	北星会施設長会議
		9日	北星会 合同通所サービス連絡会議
		13日	本部会議
		16日	鳥羽ホーム（京都市）施設見学（デイ及びハウゼ職員も）
		17日	宮津市企業人権教育推進協議会 総会
		21日	北星会施設長会議

	22 日	本部事務局運営委員会
	29 日	本部会議
6 月	3 日	北星会 法人内部監査（与謝の園・なぎさ苑）
	4 日	北星会 法人内部監査（天橋の郷・本部及び天橋園）
	5 日	北星会施設長会議
	7 日	法人研修「リーダー論」 福野初夫氏
	11 日	グループホーム天橋の家 運営推進会議
	〃	ハウゼ天橋通所介護事業所 運営推進会議
	12 日	本部会議
	〃	北星会第 1 回理事会
	13 日	GH ひだまりの家(三田市)施設見学（GH 職員も）
	〃	宮津市人権問題研修会
	14 日	北星会 合同訪問介護連絡会議
	18 日	北星会施設長会議
	19 日	宮津市と協議 天橋園群施設整備計画について
	21 日	本部会議
	〃	北星会親睦会 4 施設合同親睦行事(ボウリング)
	25 日	宮津市施設長会議
	〃	宮津市企業人権教育推進協議会役員会
	26 日	本部事務局運営委員会
	〃	北星会第 1 回評議員会
7 月	2 日	北星会施設長会議
	5 日	北星会第 2 回理事会
	11 日	本部会議
	〃	北星会 合同入所施設相談員連絡会議
	〃	京都府と天橋園群施設整備計画について協議（京都府庁へ）
	〃	京都府と与謝の園建替えについて協議開始挨拶（京都府庁へ）
	16 日	北星会施設長会議
	19 日	本部会議
	24 日	本部事務局運営委員会
8 月	6 日	北星会施設長会議
	〃	グループホーム天橋の家 運営推進会議
	8 日	GH ひだまりの家（三田市）施設見学（GH 職員も）
	13 日	本部会議
	16 日	与謝の園移転について与謝野町と協議
	20 日	北星会施設長会議
	27 日	本部会議
	28 日	本部事務局運営委員会
9 月	3 日	北星会施設長会議

	6 日	北星会 居宅サービス合同意見交換会（なぎさ苑にて）
	10 日	本部会議
	11 日	北星会第 3 回理事会
	16 日	北星会職員採用試験 高校新卒者（天橋園にて）
	17 日	北星会施設長会議
	19 日	北星会第 2 回評議員会
	24 日	本部会議
	25 日	本部事務局運営委員会
10 月	1 日	北星会施設長会議
	2 日	経営者セミナー「外国人労働者の採用」リブドゥ川瀬教授
	7 日	本部会議
	8 日	北星会 栄養・調理部門連絡会議
	〃	グループホーム天橋の家 運営推進会議
	13 日	城東自治会 草刈りボランティア参加（天橋園職員駐車場付近の歩道）
	15 日	北星会施設長会議
	〃	入札 天橋園園舎 解体工事
	18 日	合同事業所説明会
	20 日	R U N 伴 北星会職員参加 （認知症への理解を求めて）
	23 日	本部会議
	〃	本部事務局運営委員会
	〃	天橋園解体工事前の挨拶（自治会長・宮小・近隣家庭）
	24 日	宮津市企業人権教育推進協議会研修「インターネットと人権」
	〃	天橋園解体工事前の挨拶（近隣家庭訪問）
	29 日	北星会施設長会議
	31 日	天橋園解体工事前 安全祈願
11 月	3 日	GH 天橋の家入居者家族に改修事業の説明（7 家族 10 名）
	5 日	本部会議
	〃	宮津市企業人権教育推進協議会役員会
	11 日	与謝の園 移転建替えについて与謝野町と協議
	12 日	北星会施設長会議
	14 日	本部会議
	15 日	北星会 合同通所サービス連絡会議
	20 日	宮津市企業人権教育推進協議会研修「職場のハラスメント」
	25 日	北星会指名業者選定委員会
	〃	宮津市虐待防止ネットワーク運営委員会
	〃	宮津市虐待防止ネットワーク研修会
	26 日	北星会施設長会議
	27 日	本部事務局運営委員会

令和2年	12月	28日	宮津市施設長会議
		〃	北星会 苦情解決第三者委員会
		3日	天橋の郷 京都府指導監査
		〃	北星会第4回理事会 書面決議
		6日	本部会議
		10日	グループホーム天橋の家 運営推進会議
		〃	ハウゼ天橋通所介護事業所 運営推進会議
		〃	宮津市企業人権教育推進協議会役員会
		12日	北星会施設長会議
		16日	与謝の園 京都府指導監査
		19日	本部会議
		24日	北星会施設長会議
	1月	〃	入札 天橋園群施設整備計画グループホーム・デイサービス 新築工事及び付帯工事
		25日	北星会第5回理事会
		6日	宮津市賀詞交歓会
		7日	与謝の園移転について与謝野町と協議
		9日	本部会議
		14日	北星会施設長会議
		16日	宮津市企業人権教育推進協議会役員会
		17日	本部会議
		22日	本部事務局運営委員会
		28日	北星会施設長会議
		30日	本部会議
	2月	11日	北星会施設長会議
		12日	グループホーム天橋の家 運営推進会議
		〃	北星会第6回理事会
		14日	北星会第3回評議員会
		17日	本部会議
		25日	北星会施設長会議
		26日	本部事務局運営委員会
	3月	27日	天橋園群施設整備計画グループホーム・デイサービス新築工 事及び付帯工事 地鎮祭
		2日	本部会議
		10日	北星会施設長会議
		13日	本部会議
		16日	与謝の園移転について 近隣区長に挨拶
		17日	北星会施設長会議
		23日	北星会第7回理事会

24 日	北星会施設長会議
25 日	本部事務局運営委員会
26 日	本部会議
31 日	北星会第 4 回評議員会

評議員会開催状況

開催年月日	議 題
令和元年 6 月 26 日	1. 平成 3 0 年度 社会福祉法人北星会決算報告（案）について 2. 任期満了に伴う社会福祉法人北星会理事及び監事候補者の選任について 3. 社会福祉法人北星会役員等報酬規程の一部改定（案）について
令和元年 9 月 19 日	1. なぎさ苑空調設備更新事業に係る補正予算（案）について 2. 社会福祉法人北星会 基本財産の一部処分について
令和 2 年 2 月 14 日	1. 令和元年度 社会福祉法人北星会第 2 次資金収支補正予算（案）について
令和 2 年 3 月 31 日	1. 令和 2 年度 社会福祉法人北星会 事業計画（案）について 2. 令和 2 年度 社会福祉法人北星会 資金収支予算（案）について

理事会開催状況

開催年月日	議 題
令和元年 6 月 12 日	1. 平成 3 0 年度 社会福祉法人北星会事業報告（案）について 2. 平成 3 0 年度 社会福祉法人北星会決算報告（案）について 3. 任期満了に伴う社会福祉法人北星会理事及び監事候補者の推薦について 4. 社会福祉法人北星会諸規定の改定（案）について
令和元年 7 月 5 日	1. 社会福祉法人北星会 理事長の選定について 2. 社会福祉法人北星会 業務執行理事の選定について 3. 社会福祉法人北星会 第 1 次補正収支予算（案）について 4. 天橋園群改修計画に係る設計者の選定について

令和元年 9月11日	1. 社会福祉法人北星会 基本財産の一部処分について 2. 社会福祉法人北星会 建築工事等請負業者指名要綱の制定について 3. 社会福祉法人北星会 建築工事等指名業者選定委員会設置要綱の制定について 4. 天橋園群施設整備計画に伴う解体工事および付帯工事業者選定について 5. 天橋園改修事業に係る設計（実施）及び監理業者選定について
令和元年 12月3日 （書面決議）	1. （仮称）天橋園群施設整備計画 グループホーム・デイサービス新築工事および付帯工事入札にかかる社会福祉法人北星会建設工事等請負業者選定委員会の答申承認について
令和元年 12月25日	1. 天橋園群施設整備事業に係る独立行政法人福祉医療機構借入金について 2. （仮称）天橋園群施設整備計画 グループホーム・デイサービス新築工事及び付帯工事請負契約の締結について
令和2年 2月12日	1. 令和元年度 社会福祉法人北星会第2次資金収支補正予算（案）について
令和2年 3月23日	1. 令和2年度 社会福祉法人北星会 事業計画（案）について 2. 令和2年度 社会福祉法人北星会 資金収支予算（案）について 3. 令和2年度 社会福祉法人北星会 諸規程の変更（案）について

監査について

・北星会監事監査

- 1 日 時 令和元年6月3日（月）・4日（火）
- 2 場 所 特別養護老人ホーム天橋園 特別養護老人ホーム与謝の園
特別養護老人ホーム天橋の郷 介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑
- 3 監査員 川瀬 明 監事 ・ 竹内 明 監事
- 4 監査対象

本部・天橋園関係	与謝の園関係
北星会本部 特別養護老人ホーム天橋園 天橋園短期入所生活介護 天橋園通所介護 天橋園居宅介護支援 天橋訪問介護 ハウゼ天橋通所介護 グループホーム天橋の家 天橋園診療所 ※介護予防・障害福祉含む	特別養護老人ホーム与謝の園 与謝の園短期入所生活介護 与謝の園通所介護 与謝の園居宅介護支援 与謝の園訪問介護 与謝の園訪問入役介護 与謝の園診療所 ※ 介護予防含む

天橋の郷関係	なぎさ苑関係
特別養護老人ホーム天橋の郷 天橋の郷短期入所生活介護 天橋の郷通所介護 はまなす苑通所介護 はまなす苑居宅介護支援 ※ 介護予防含む	介護老人保健施設 リハ・ヴィラなぎさ苑 なぎさ苑短期入所療養介護 なぎさ苑通所リハビリテーション なぎさ苑訪問リハビリテーション なぎさ苑居宅介護支援 ※ 介護予防含む

- 5 監査範囲 (イ) 平成30年度 社会福祉法人北星会事業報告書
(ロ) 平成30年度 社会福祉法人北星会決算報告書(財務諸表)
及び関連帳簿

6 監査結果

平成30年度事業報告書と財務諸表(資金収支計算書、事業活動計算書、貸借対照表)等の関係書類が社会福祉法人会計基準に準拠し、作成・執行されているか本部及び各拠点の関係者から事情聴取を行い、また、会計帳簿等が正しく記帳されているか監査を行いました。

監査の結果、平成30年度の収支及び事業活動の状況並びに財政状態を示す財務処理等は適切に行われていると認められました。また当法人の事業運営は適正であると認めます。

7 監査結果の講評

平成30年度の北星会の決算状況は、他事業所とのサービス競合が益々激しくなる中、北星会の経営成績は「経営努力」や「全職員の地道な努力」の結果、前年度に比べて減少したものの、今年度も黒字が確保され評価できる。

社会福祉事業の天橋園拠点では、特養「天橋園」が年度途中で休止となった中での決算で前年度と比較することはできないが、他のサービス事業は順調で、拠点全体では「黒字」が確保されている。

また、特養「天橋園」の休止に伴う職員の受入拠点では、収益面は前年度に比べて増加しているものの、費用面は特に人件費が大幅に増加し利益が前年度より減少している状況となっている。

今後は、宮津地域・与謝地域における介護サービスも法人間競争が一層激しくなることが予想されることから、各拠点で知恵を出し合い、令和の時代に相応しい拠点づくりを目指していただきたい。

また、経営成績が年々落ちている中、中長期的にみれば「天橋園拠点」の改築、「与謝の園」の移転・新築、「なぎさ苑」・「天橋の郷」の空調設備の大規模修繕など、大きな資本を投資しなければなりません。

このことを踏まえ、法人の将来における「経営基盤」の安定化のため、中長期を見通した「経営計画」を策定し、事業運営が持続的に行えるよう努められたい。

なお、下記の留意事項については、今後改善され法人の運営管理に生かしていただきたい。

(共通留意事項)

1. 決算付属明細書における「流動資産」・「流動負債」等の明細書については、記載方法の統一を図ること。(拠点内のサービス区分間の精算)
2. 年間大量に購入する消耗品、水道光熱費及び燃料費については、年度当初に業者見積を徴収し、単価契約を締結することで費用削減を図っていただきたい。
3. 貸借対照表内訳表の固定資産の金額と固定資産管理台帳の帳簿価額と照合できるように科目の追加を行っていただきたい。
4. 現状の決裁方法では、「理事長」に決裁が集中し、法人の管理責任者として業務が過度となっているので、決裁の基準となるべき「事務決裁規程」を定め、事務の効率化を図られたい。

(各施設留意事項)

1. 流動資産における「現金預金」が多額となっているので、目的を持った「減価償却積立資産」へ振替えし、固定資産として整理をすることが望ましい。
(与謝の園)
2. 訪問入浴事業について、必要性は十分に理解できるが、近年は大幅に利用者が減り年間利用者数が前年度対比48%に止まる中、今後の訪問入浴車両の更新等を考えると、民間委託等当該事業のあり方を検討すべきでは。(与謝の園)
3. 下取りを伴う車両等の固定資産取得費については、下取り価額を含めないで計上するよう留意すること。(与謝の園)
4. 事業未収金の「利用者負担金」について、過年度徴収不能分で長期に渡るものは理事会承認等適切に整理すること。(与謝の園・なぎさ苑)
5. 事業未収金・事業未払金の計上で、拠点独自の整理方法で処理され、資産・負債とも実際より膨らんだ形で、「貸借対照表」が作成されているので、「仮払金」等の科目で処理すると共に内部取引消去を適切に行うこと。
(天橋の郷)
6. 拠点独自の配食サービスも実施する中で、他の拠点と比べて水道光熱費、中でも特に「ガス代」が高くなっている。このことによって人件費などを含めた「給食費」全体のコストが上がり、経営状況を圧迫していることから、費用対効果について検証されたい。(天橋の郷)

令和元年度 社会福祉法人北星会

天橋園 事業報告書

【年度統括】

宮津市・与謝野町及び京都府と協議しながら事業休止及び廃止に向けて進めてきました特別養護老人ホーム天橋園は、平成 31 年 4 月 30 日をもって介護老人福祉施設としての介護保険法上の指定認可を満了し、令和元年 9 月 30 日をもって老人福祉法上の特別養護老人ホームを廃止しました。

リニューアルする天橋園は、北星会が設立されたこの地で「介護が必要になってもこの宮津の地で暮らし続けることが出来るように」と開設時の住民の願いを守り続けながら事業展開については宮津市と協議し、新しい建物には下記の願いを込めて計画しました。

- 認知症ケアサービスにも重点を置きながら介護ニーズに応えられるように、高齢者グループホームの 1 ユニット 9 名を増床します。
- 効率良くサービスがご利用者に提供できるように、別棟で事業を行っていたデイサービスと認知症対応型デイサービスの同一棟での事業の運営を行います。
- 地域の方にご利用いただけるスペースを設置し、北星会の持つ専門性や機能をボランティアの方と連携しながら地域包括支援システムの一翼が担えるように努めていきます。

天橋園群の各事業所の令和元年度事業実績については、前年度の利用実績を上回ることができた事業所もあれば、一部の事業所においては前年度実績を下回る事業所も出ました。事業実績が下回った事業所では要因を確認しながら、職員一人一人が利用実績の向上に向けて見直しを行い、加算については算定可能な項目については確認しながら、取得していくように進め、より安定した事業所運営に努めていくことを次年度の目標としました。

特別養護老人ホーム天橋園の事業廃止後、天橋園の各事業は地域包括システム推進の一翼を担い、地域の方に喜ばれる事業を立地条件に恵まれたこの場所で行うには、私たちに何が必要かを地域の声に耳を傾け、職員みんなで引き続き検討する事が求められています。

【事業報告】

1. 通所介護（天橋園通所介護事業所） ※利用定員 25 名/日

令和元年度は台風・積雪等による休業もなく、前年度と同様に年間をとおして利用者数は安定しましたが、10 月中旬から職員 1 名が入院加療、11 月には更に 1 名が骨折の為自宅療養となり、2 名を欠いた現場は苦しいものでしたが、他の職員の協力によ

り利用者に大きな事故もなく連携よく業務にあたれたことに感謝しています。

- ・利用実績については、複数回利用されていた要介護 3・4 のご利用者が特別養護老人ホームへの入所や他の事業所に利用を変更された為に減少しました。
- ・前年度まで算定していた認知症加算が令和元年度より算定不可となったことが減収につながりました。
- ・平成 30 年 8 月頃から少しずつ増加していた要支援のご利用者に加え、介護認定の更新で要介護から要支援に変更になられる方もあり、介護予防（総合事業）の利用者数が増加しました。

令和 2 年度も、ご利用者の皆様に少しでも楽しい時間を提供できるよう職員一同更に努力し、職員間はもちろん他の事業所とも連携良く業務にあたりたいと考えています。

また、新規利用者の受け入れと新しい加算の算定にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	利用定員/日	営業日数	延利用者数	利用率	平均介護度
30年度	25	307	6,469	84.3%	1.7
元年度	25	311	6,540	84.1%	1.7

(イ) 要介護度別利用者数の状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	小 計
30年度	1,874	2,297	636	523	119	5,449
元年度	2,188	2,410	458	100	136	5,292

(ウ) 要介護度別利用者数の状況 介護予防

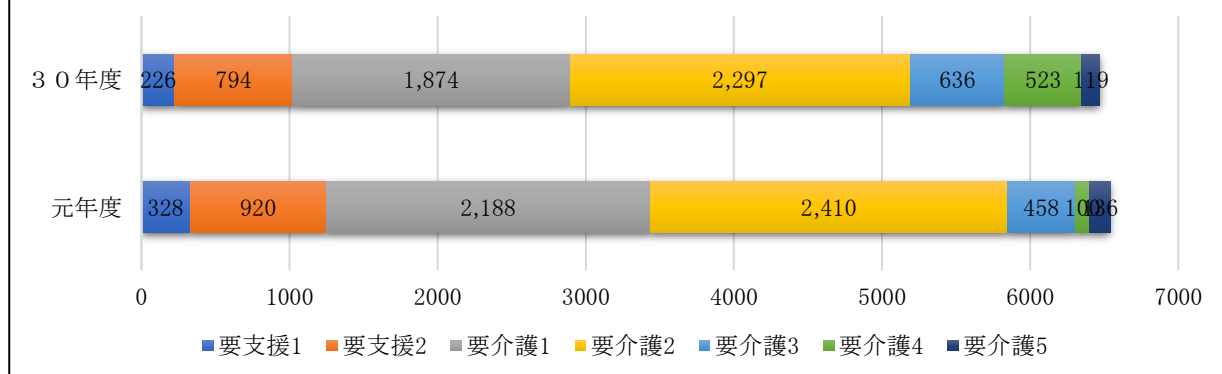
介護度 年度	要支援 1	要支援 2	小 計
30年度	226	794	1,020
元年度	328	920	1,248

(エ) 加算算定の状況

加算項目 年度	機能訓練Ⅱ	入浴	認知症	体制ⅠⅠ	処遇改善Ⅰ	特定処遇Ⅰ
30年度	4,741	4,931	930	5,450	741	
元年度	4,462	4,821	0	5,376	747	364

※介護職員等特定処遇改善加算・令和元年 10 月より算定

通所介護 介護度別延べ利用状況



2. 認知症対応型通所介護（ハウゼ天橋通所介護事業所） ※利用定員12名/日

認知症高齢者に対する地域のニーズに少しでも応えられる様に、ご利用者の認知症状の緩和とご家族の介護負担の軽減に努めました。

ご利用者に対し『買い物支援サービス』や『屋外活動支援サービス』また利用時間の延長などを提供する事により、ショートステイ等の他のサービス利用を抑え、ハウゼ天橋の利用を継続いただきました。又、令和元年5月より併設型から単独型になったことで利用単価が上がりましたが、利用率は順調でした。また冬期は例年通り介護老人保健施設等への入所・体調不良等で利用率は下がったものの、年間を通し1日平均11.1人と過去最高の実績を残す事ができました。

今後も在宅での暮らしを希望されるご利用者やご家族を支援し、ご利用者の確保と個別サービスに取り組みながら、算定可能な加算は積極的に取り入れていきます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率

区分 年度	定員	営業日数	延利用者数	利用率	平均介護度
30年度	12	256	2,824	91.9%	3.04
元年度	12	259	2,881	92.7%	3.28

(イ) 要介護度別 延べ利用者数の状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
30年度	58	866	1,210	277	413	2,824
元年度	57	601	1,103	731	389	2,881

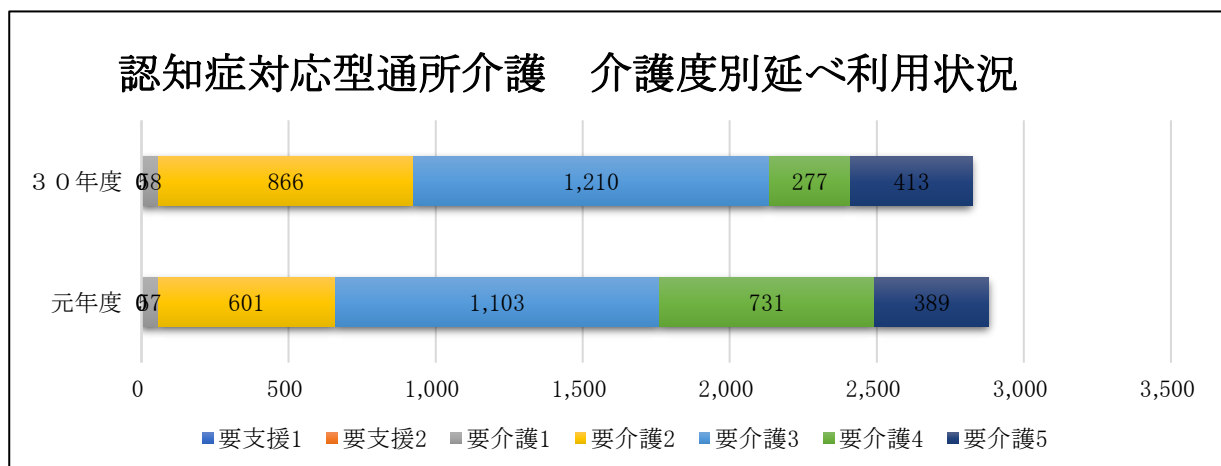
(ウ) 要介護度別 延べ利用者数の状況 介護予防

介護度 年度	要支援1	要支援2
30年度	0	0
元年度	0	0

(エ) 加算算定件数の状況

加算項目 年度	入浴	体制 I 1	処遇改善	特定処遇	機能訓練
30年度	2,512	2,824	275		453
元年度	2,580	2,881	288	146	166

※ 特定処遇 (介護職員等特定処遇改善加算) 令和元年10月より算定



3. 訪問介護 (天橋訪問介護事業所)

平成30年度に大幅に増加した身体介護の訪問実績を令和元年度も維持することができました。今年度は、新規の訪問として、最期を自宅で迎えるために病院から戻られた方への看取り介護の訪問依頼が多く、希望通り最期を自宅で迎えられた方もありましたが、在宅生活が継続できずに施設へ入所される方もあり、訪問が短期間で終了となることもありました。このことが訪問実績は減りましたが契約人数の増加につながっているといえます。

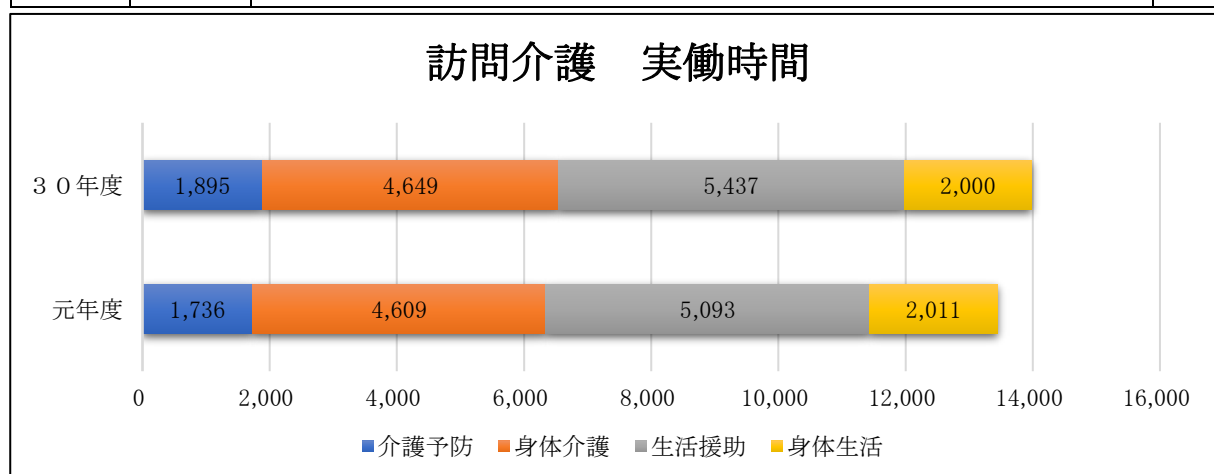
生活援助におきましては、床が見えないほどゴミが散乱した家屋、ガスも水道もないお宅、トイレが使用できずに排泄物を庭や山に捨てておられるお宅など、健康で文化的な生活とは言えないお宅への訪問が増加の傾向にあり、また、認知症だけでなく本人もしくは同居されているご家族にも精神疾患があり、訪問介護サービスの受け入れが理解できないケースも多く、身体援助技術とはまた違った面での介護従事者としての援助技術が求められています。

毎年行っている筋萎縮性側索硬化症(ALS)のご利用者の北部医療センターでのレスパイト入院(介護者の休養等を目的とした入院)では、前年度同様の重度心身障がい児(者)ショートステイ受け入れ体制整備事業により、病院に訪問し在宅時と同様のサービスの提供を行いました。今年度は今まで主となって関わってきた職員が異動になったため、経験の浅い職員が、これまでレスパイトに関わってきた職員に同行し、次年度に向けて意欲的に技術を身に付けることができました。

次年度も、ご利用者から学ぶ気持ちを忘れず、ご利用者が住み慣れた場所で、一日でも長く笑顔で過ごしていただけるよう、ご家族、ケアマネ、他事業所と連携を取りながら訪問を行っていききたいと思います。

(ア) 介護度別利用者数の状況及び実働時間

	年度	介護予防サービス		介護サービス					障害者 支援	合 計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5		
契約人数(人)	30年度	13	20	36	44	32	16	16	1	178
	元年度	11	21	41	51	29	26	14	1	194
介護予防(h)	30年度	1,895 時間 30 分								14%
	元年度	1,736 時間 15 分								13%
身体介護(h)	30年度	4,649 時間 00 分								33%
	元年度	4,609 時間 30 分								34%
生活援助(h)	30年度	5,437 時間 15 分								39%
	元年度	5,093 時間 45 分								38%
身体生活(h)	30年度	2,000 時間 分								14%
	元年度	2,011 時間 分								15%
合 計	30年度	13,981 時間 45 分								100%
	元年度	13,450 時間 30 分								100%



4. 認知症対応型共同生活介護 (グループホーム天橋の家) ※入居定員9名

令和元年度においては、入居者2名、退居者2名、入院者も例年に比べ少なく、ご利用者が安定した体調と環境下で生活していただくことができました。

また令和元年10月の消費税率増税に伴い、食費の見直し、食材についても購入先、購入方法の見直し等コストダウンにも努めました。

令和2年度は新施設開設に伴い、1ユニット9名増床と大きく変化する年となります。今までの実績を基に、ご利用者、ご家族には満足と安心してご利用して頂け、地域からも信頼して頂けるサービスを展開できるよう努めてまいります。

①入居者の状況

(ア) 稼働率 (定員：9名)

年度 \ 区分	営業日数	延入居者数	平均入居者数/日	稼働率
30年度	365	3,254	8.9	99.1%
元年度	366	3,290	8.9	99.9%

(イ) 契約数

年度 \ 区分	新規入居者数	待機者数
30年度	4	18
元年度	2	17

(ウ) 地区別 新規入居者数の状況

年度 \ 地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
30年度	4	0	0	0
元年度	2	0	0	0

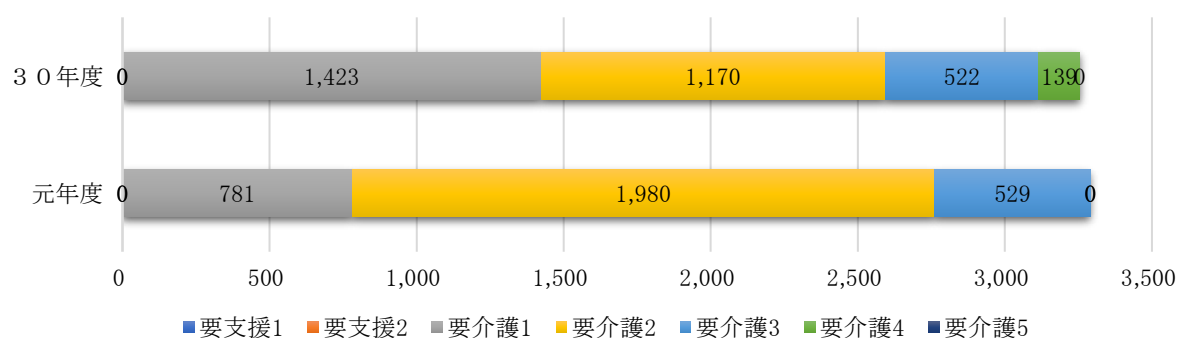
(エ) 要介護度別 入居者の状況 (各年度 3月現在)

年度 \ 介護度 性別	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
30年度	0	3	0	4	0	2	0	0	0	0	0	9
元年度	0	2	0	6	0	1	0	0	0	0	0	9
平均要介護度	30年度				1.9							
	1年度				1.9							

(オ) 要介護度別 (延入居者数の状況)

年度 \ 介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
30年度	1,423	1,170	522	139	0	3,254
元年度	781	1,980	529	0	0	3,290

グループホーム 介護度別延べ利用状況



5. 居宅介護支援（天橋園居宅介護支援事業所）

在宅介護の身近な相談窓口として、地域包括支援センターや病院、施設など関係機関と常に連携し、在宅で介護を希望される新規ご利用者につきましては、ご自宅や病院・施設へお伺いし、お身体の状態や生活されている環境を確認させていただきながら、安心して自宅で生活を継続していただけるように、また、継続して担当させていただいているご利用者は身体状態の確認やご家族の状況など環境変化がないかを確認しサービス利用を調整支援してきました。

ケアプラン作成や給付管理につきましては、ご利用者の身体状態の変化によりご家族の不安感の強まりや介護力不足から入所や入院継続を希望されたり、新人ケアマネと退職を控えたケアマネの担当件数を調整していた期間もあり、新規ご利用者を積極的に受け入れることができず、管理件数は低下しました。

平成29年度に、はまなす苑居宅介護支援事業所と統合したことやケアプランセンター由良（他法人）の事業所閉鎖により由良地区に相談窓口がなくなり、支援の内容や対応にご不便をおかけしていないか等の確認のため、ご利用者にご家族に満足度アンケートを今年度を実施しました。

その結果「満足している」のお言葉を多くいただきましたが、ご利用者やご家族からお聞きした要望などをサービス事業所に伝えきれていないことがあったとご意見があり、一部で十分な対応ができていないこともわかり、より良いサービスへの改善点として具体的に知ることができました。また、天橋園内の他部署と協力しているオレンジカフェの取り組みを継続し、ケアマネ自らが地域に出かけつながりを大切にすることも心掛けました。

独居や高齢者ご夫婦、男性介護者とのお二人世帯、また医療ニーズの高いご利用者など、在宅介護は重度化、多様化しています。安心して暮らすことができるように今後も地域との交流を持ち、研修会や地域ケア会議に参加し、主治医や関係機関との連携を持ちながら、迅速に、親切丁寧な相談援助に務めて参ります。

（ア）内容別相談件数

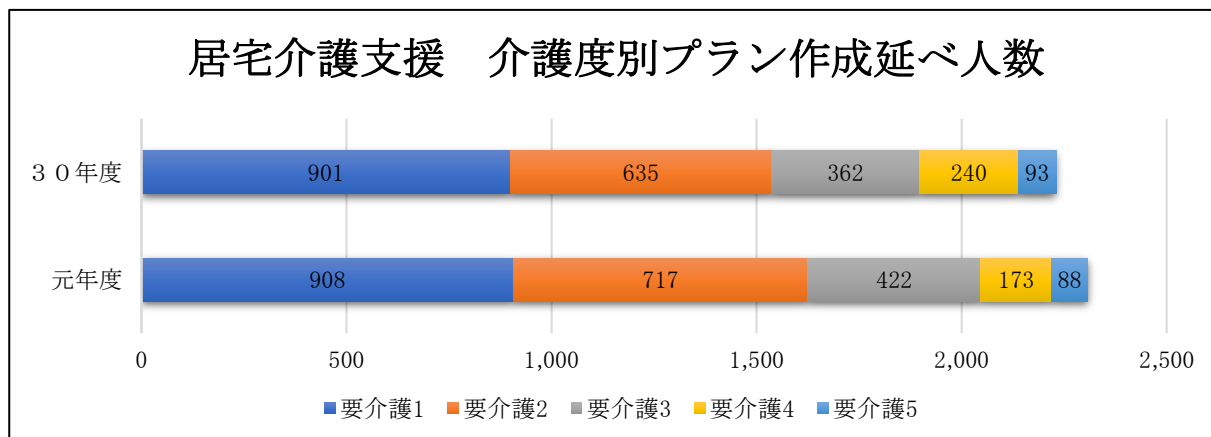
内容 年度		介護保険その他 福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
30年度	実数	267	12	3	83	365
	延数	11,526	45	21	5,007	16,599
元年度	実数	268	8	3	122	401
	延数	12,227	76	16	5376	17,695

（イ）ケアプラン作成管理件数

	作成管理実件数
30年度	248
元年度	241

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
平成 30 年度	0	0	901	635	362	240	93	2,231
令和元年度	0	0	908	717	422	173	88	2,308



6. 事務

天橋園の事業開始当初に開設した特別養護老人ホーム会計については、これまで特養会計で負担していた諸費用について見直しを行い、他の事業所会計で按分負担等するように行いました。また、法人本部との統合によりこれまでの事務手続きについても確認しながら、効率良くスムーズに遂行できるように順次進めてきました。

【おむつ等販売】

年度	項目	販売数 (パック)
30年度		1,271
元年度		1,121

【職員研修参加状況】

①施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
良質な睡眠について 安全衛生委員会研修会	30 名	丹後保健所出前講座を利用し、働き盛り世代の健康づくりのために、睡眠について学ぶ。

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
成年後見制度利用促進に係る勉強会	2 名	平成 31 年 4 月から成年後見制度に係る診断書等の改定及び新しく本人情報シートが導入された為、シートの活用を学ぶと共に成年後見制度の理解と支援に繋げる。

高齢者・障がい者施設職員等感染症予防対策研修会	1名	感染症に関する基礎知識を深め、施設内の集団感染予防対策を推進する。
入所等介護施設職員(一般介護職員)対象 虐待防止研修(宮津市)	2名	入所等の介護施設において、介護業務に従事する職員に対し、虐待防止の知識の普及や人権擁護等の意識啓発を図ることを学ぶ。
身体拘束ゼロ推進研究委員会基礎研修会	1名	身体拘束・不適切ケアをどう廃止するかを考え、理解を深める
キャラバン・メイト養成研修	3名	認知症への理解の輪を広げるためにキャラバン・メイトとして活動すること。
医療と介護の連携推進研修会	1名	高齢者の安心した生活を支援していくために、関係者との連携強化を図り更なる向上を推進していく事を目指す。
京都府介護支援専門員実務経験者更新研修【課程Ⅱ】	1名	介護支援専門員資格継続の更新研修
「京都式」ケアプラン点検研修実践コース	1名	プランの点検の体験を通して自立支援に資する「京都式」ケアプランの実践方法を習得する。
京都府介護支援専門員実務研修における実習受入協力事業所指導者講習会	1名	介護支援専門員実務研修カリキュラムに沿った指導内容等について学ぶ。
京都府ホームヘルパー連絡協議会研修会「生活場面の介護技術」	1名	介護技術の基礎を学び、利用者へのサービス提供の質を高める。
京都府介護支援専門員会 企画研修「ケアプラン点検を学ぼう」	2名	「京都式」ケアプランの実践方法を習得する。
安全運転管理者講習	1名	安全運転管理についての知識
宮津市企業人権推進協議会研修	1名	「インターネットと人権」
宮津市高齢者等虐待防止ネットワーク研修会	2名	施設事業者による高齢者虐待の予防の対応

令和2年2月下旬より新型コロナウイルス感染拡大防止策として、集合形式の研修会等は中止となりました

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	月	学校・事業所名
9	京都暁星高等学校	10	福祉即戦力養成研修

【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
玉穂会様	民謡	11 回	94 名
野菊会様	園内清掃・雑巾ぬいをご利用者と	10 回	32 名
天理教婦人部様	園内・屋外清掃	9 回	19 名
オールディーズ様	懐メロ(ギターとハーモニカ演奏)	5 回	10 名

【各種会議開催状況】

会 議 名	開催回数/年
行事計画主任会議	1 2 回
業務運営会議	1 2 回
安全衛生委員会	1 2 回
身体拘束ゼロ推進会議（GH会議内） GH内部での研修も含む	1 2 回
職員会議	1 回

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9 月 3 日	58 人	年 1 回
腰痛健診	9 月 3 日・2 月 17 日	42 人・25 人	半年に 1 回
深夜業務従事者健診	2 月 17 日	7 人	年 1 回
ストレスチェック	9 月	40 人	年 1 回

令和元年度 社会福祉法人北星会

与謝の園 事業報告書

【年度統括】

開園以来 35 年が経過した従来型施設の与謝の園は、老朽化に加え地盤沈下等による建物構造上の不具合が顕著であり、危機管理や感染症対応をはじめ、安心・安全・安楽で快適な生活環境の設定及び寄り添う介護（個別ケア）の実践が著しく困難な状況にあります。厳しい施設運営を強いられるなか、職員一人ひとりの地道な経営努力とより効率的な事業運営に努めるとともに、ご利用者一人ひとりの「その人らしい生活（暮らし）」を支援できるよう努めました。

令和元年度については身体的または精神的な苦痛を緩和し最期までご本人らしく暮らせる看取りについて各部署協働で取り組みました。「看取り」とは日常のケアの延長線上にあること、最期のケアを誠実に行うには、日ごろからご本人とご家族の言葉に耳を傾けること等、日々の真摯な介護の積み重ねの重要性を認識することができ、サービスの質の向上につながりました。

特別養護老人ホーム与謝の園の移転に向けて、地域住民の方を対象に、「地域に出かける」「施設に来ていただく」を重視して福祉に関する情報を提供することに努め、また地域の要望等を把握することに努め桑飼シルクカフェの充実やオープンデイを開催しました。

カフェの参加者やオープンデイ参加者からデイサービス、居宅支援の利用につながったケースが増加しました。これからも医療と介護と福祉とのつながりをもちつつ、相談支援の機能を果たしていきます。

【事業報告】

1. 特別養護老人ホーム

①入居利用者の状況

(ア) 稼働率（入居定員：80 名）

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
平成 30 年度	365	28,786	414 床	78.9 人	98.3%
令和元年度	366	29,030	250 床	79.3 人	99.2%

(イ) 契約数（3 月 31 日時点）

年度 \ 区分	新規入居者	申し込み者	退園者	施設内死亡	(施設看取り) 加算算定	施設外死亡	施設移転	帰宅
平成 30 年度	22	91	21	12	(11)	8	1	0
令和元年度	22	93	23	20	(17)	3	0	0

(ウ) 地区別 入居状況 (3月31日時点)

年度 \ 地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
平成30年度	4	72	3	0	79
令和元年度	3	72	3	0	78

(エ) 年齢・性別 入居状況 (3月31日時点)

年齢性別 区分	60～64		65～69		70～79		80～89		90～99		100以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
平成30年度	0	0	0	0	4	3	3	16	2	41	0	10	9	70	79
令和元年度	0	0	0	0	4	4	2	20	2	38	0	8	8	70	78
平均年齢	平成30年度		男性		88.6		女性		92.0		合計		91.3		
	令和元年度		男性		82.1		女性		92.1		合計		91.1		

(オ) 入居期間別 入居状況 (3月31日時点)

期間 区分	6か月未満		6か月以上 1年未満		1年以上 3年未満		3年以上 10年未満		10年以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
平成30年度	1	6	1	13	5	21	2	23	0	7	9	70	79
令和元年度	0	10	1	9	6	21	1	26	0	4	8	70	78
平均入居期間		平成30年度		3年9か月									
		令和元年度		3年1か月									

(カ) 入居期間別 延入居状況 (特養)

期間 性別 年度	6か月未満		6か月以上1年未満		1年以上3年未満		合計
	男	女	男	女	男	女	
平成30年度	2	11	1	12	5	26	100
令和元年度	0	13	1	10	5	26	
期間 性別 年度	3年以上10年未満		10年以上		計		合計
	男	女	男	女	男	女	
平成30年度	2	27	0	14	10	90	100
令和元年度	3	36	0	9	9	94	103

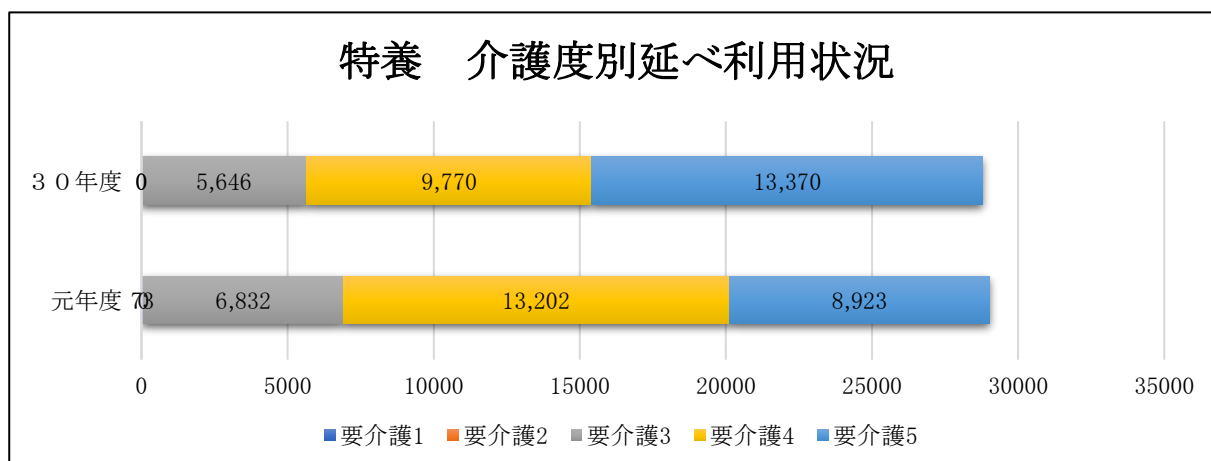
(キ) 介護度別 入居状況 (3月31日時点)

区分 \ 介護度 性別	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成30年度	0	0	0	0	0	16	6	24	3	30	9	70
令和元年度	0	0	0	0	1	21	5	29	2	20	8	70
平均要介護度	平成30年度				4.20							
	令和元年度				4.06							

(ク) 介護度別 延入居状況

区分 \ 介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
平成30年度	0	0	5,646	9,770	13,370	28,786
令和元年度	73	0	6,832	13,202	8,923	29,030

※高齢者虐待防止法による措置（要介護1）1名受け入れ（令和2年1月16日～3月27日）



2. 介護部

ご利用者の「安全」「安楽」と自立支援を念頭の置き、他部署への連携をとりながら、ご利用者一人ひとりが、「その人らしい生活」をおくれるような、個別ケアの実践、また生活の質の向上に努めました。

- ①ユニットごとの具体的な目標を挙げ、ユニット会議時や日々の意見交換をもとに一人ひとりのご利用者に添ったケアが実践できるように情報共有化に努めました。
- ②ユニット目標を達成するために評価を定期的に行いました。
- ②入浴・排泄・食事形態・口腔ケア、ポジショニング、シーティングの見直しをはじめ、個々の意向に添った余暇活動（レクリエーション活動、外出レク等）の充実を図り「その人らしい生活」の支援に努めました。
- ③担当者会議・面会時・月々の誕生会や与謝の園祭り等の行事の際には、ご家族にご利用者の様子を報告・連絡・相談するなど信頼関係の構築に努めました。
- ④サービスの質の向上のため、各種委員会活動、部会活動をはじめ、委員会主催の施設内研修、外部への施設外研修の参加し、認知症等の専門的知識の向上に努めました。

また、ユニット会議時には、「認知症ケアについて」「吸引について・服薬について」の専門的知識の向上と再確認、「陰部洗浄について」「褥瘡の原因になりやすい悪い例の体験」等を行い、一人ひとりの介護技術の向上に向けて取り組みました。

- ⑤「看取り」についての理解を深め、職員間の意識の統一を図る事に努め、ユニット内で、その人らしい看取りケアの充実を図りました。

3. 相談部

入所の相談について、与謝野町内からの申し込みはやや減少しましたが、宮津市、伊根町からの申し込みが増加しています。今年の特徴としては、骨折などにより入院し病院から入所の申し込みを勧められ申請に至るケースが目立ちました。

また退去者数は昨年と大きく変わりませんが、施設内看取りに取り組んだ結果、加算の算定者数は増加しています。

(ア) 相談件数

区分 年度	入所相談	在園者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合 計
平成 30 年度	93	220	59	1	0	373
令和元年度	93	260	72	1	0	426

(イ) 待機者数（地区別）

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合 計
平成 30 年度	8	72	2	9	91
令和元年度	12	63	9	9	93

(ウ) 待機者数（介護度別）

介護度 年度	要支援・他	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
平成 30 年度	0	2	4	48	23	14	91
令和元年度	0	3	1	51	25	13	93

(ウ) 退去状況（特養）

退去先 年度 区分		自宅・家族宅	園内で死去	医療機関で死去	看取りによる死亡 (加算算定)	その他 医療機関（入院）等	合 計
平成 30 年度	人数	0	12	8	(11)	1	21
	比率	0%	57.14%	38.09%	(52.38) %	4.76%	100%
令和元年度	人数	0	20	3	(17)	0	23
	比率	0%	86.95%	13.04%	(73.91) %	0%	100%

4. 給食部

- ・ご利用者の重度化に伴い、ゼリー食、ミキサー食の全体に占める割合が非常に高くなっています。昨年に引き続き、他部署協力のもとゼリー食、ミキサー食、きざみ食の改良・

改善のため取り組みました。きざみ食の改善には至りませんでしたが、ゼリー食の味や硬さは少しずつ改善できたと思います。また、令和2年4月からはきざみ食を廃止し、更に安全で食べやすく、見た目にも食欲をそそるゼリー食が提供できるよう取り組んでいきます。最期まで口から食べる喜びを感じて頂けるような食事提供ができるよう次年度も引き続き取り組みたいと考えています。

また、令和元年5月1日より園からのおやつ提供（特養、短期）を開始しました。日々、試行錯誤しながら、園での生活の中でご利用者の楽しみが1つでも増えればという思いで取り組んできました。

- ・「栄養ケア」に基づき、糖尿食・減塩食・カリウム制限食・脂肪制限食の特別食の提供や、ご利用者一人ひとりの状態や体調・嗜好に応じた個別的な食事提供にも引き続き力を注いできました。通所介護・短期入所のご利用者についても、健康状態や嗜好などに応じた個別対応をはじめ、楽しく食事ができ、なお且つ栄養改善が図れるよう努めました。

その他「安心・安全な食事提供」を前提に、施設内や厨房内の衛生管理・職員の体調管理を徹底し、食中毒や感染症などの発生予防に努めました。

提供実績

（ア）延食数

区分 年度	特養	短期入所	通所	合計
平成30年度	82,525	7,538	5,842	95,905
令和元年度	85,647	7,536	6,004	99,187

（イ）栄養基準（1日あたり）

項目 区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (μgRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基準	1,300～ 1,500	60	600	30	10	550	0.8	1.0	80
平成30年度	1,429	56.4	453	33.3	6.4	634	0.65	1.34	67
令和元年度	1,408	56.7	453	32.4	6.4	725	0.61	1.41	68

（ウ）食品群別摂取量（1人1日当たり食糧構成）

（単位：g）

群 類 区 分	1 群		2 群						3 群					4 群		
	牛乳乳製品	卵類	魚介類	獸鳥肉類	豆類	大豆製品	味噌	堅果類	緑黄色野菜	淡色野菜	果実類	芋類	海藻類	米	麦	油脂
基 準	180	50	60	40	40		10	1	100	150	80	100	7	120	70	7
今年度平均	183	30	58	41	58		—	0.6	90	160	64	39	3.1	123	82	3.8

*味噌は豆類・大豆製品に含みます。

5. 看護部

最近、自然な最期を望まれる方、積極的な医療を望まれる方など、ご利用者・ご家族のニーズが多様化してきています。施設での看取りを希望される方が今後、増えていくと思われますので積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

- ①日頃から、体調維持のため、疾病の予防・異常の早期発見・早期対応に努めました。
- ②今年度も引き続き担当制をとり、ご家族には細かに情報提供を行い、信頼関係の構築に努めました。
- ③職員間の連携については、情報の共有化を心掛け、喀痰吸引を始めとする医療的ケア、褥瘡対策に取り組みました。
- ③令和元年度より「看取り委員会」を立ち上げ、まず職員の看取りに対する意識を変えるように取り組みました。看取りの園内研修も計画しましたが、新型コロナウイルスの影響で延期となりました。
- ④感染症対策においては、平成 30 年度から令和元年度にかけてインフルエンザが職員・ご利用者へと拡大し、その予防対策について、大いに反省するところとなりましたが、早期に保健所に報告し指示を仰ぐ等対策を講じ、重症者を出すことなく収束に至りました。さらに年度途中もご利用者が 1 名罹患しましたが、感染が広がることなく収まりました。
- ⑤令和元年度は、新規に長期入所された方から、疥癬が発症し、複数の利用者にも症状が現れ、その対応に追われました。その症例を機に疑わしい症状について皮膚科医へ相談し治療に繋げました。

6. 短期入所

令和元年度は長期空床利用を積極的におこない、緊急受入にも柔軟に対応することでベッド稼働率の向上を図りました。感染症シーズンおよび新型コロナウイルスへの懸念から利用希望が少なかったり、利用キャンセルが相次いだりするなどして前年度と同程度の稼働率（小数点以下でわずかに増加）となりました。前年度に比べ、一回の利用日数が平均してやや長くなったことや、定期的に利用されるご利用者の増加など、効率的に稼働できる要素が多かったように思ひますが、その要因としては、独居や要介護者のみの世帯のご利用者からのニーズが多かったものと推察します。平均介護度はわずかに上がり、看取り期にあるご利用者（1 名）の受入のほか、医療的処置（経管栄養・導尿カテーテル等）を多く必要とするご利用者を広く受入ることで、地域のニーズに対応できたものと考えます。

①利用者の状況

（ア）稼働率（定員：10 名）

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
平成 30 年度	365 日	3, 285 人	9. 0 人	90%
令和元年度	366 日	3, 296 人	9. 0 人	90%

(イ) 契約数

区分 年度	新規入所者
平成 30 年度	40 人
令和元年度	30 人

(ウ) 地区別 入所状況

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
平成 30 年度	0 人	72 人	0 人	1 人
令和元年度	0 人	73 人	0 人	0 人

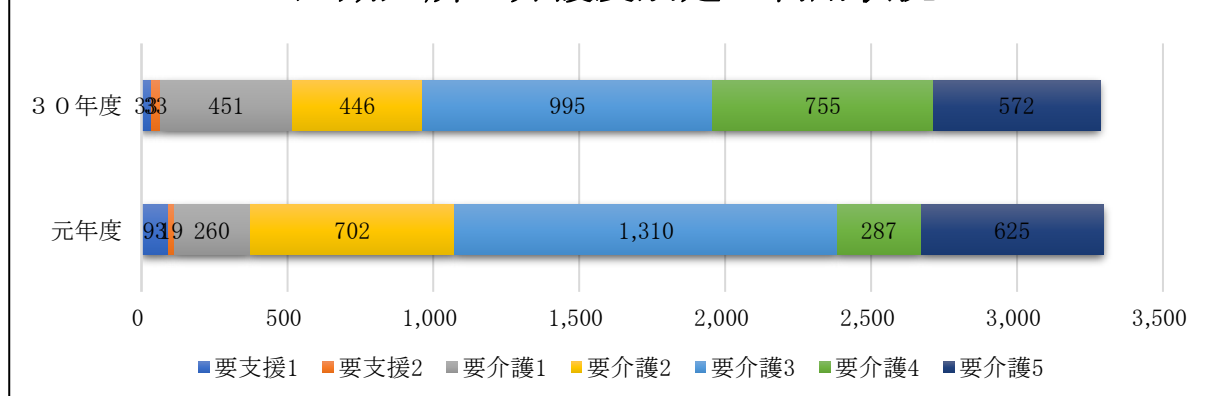
(エ) 介護度別 入所状況

介護度 性別 年度	要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 30 年度	1	1	1	5	3	11	4	15	5	6	6	5	6	5	26	47
令和元年度	1	2	0	3	4	4	4	14	2	27	0	10	6	5	17	65
平均要介護度	平成 30 年度				2.56											
	令和元年度				2.97											

(オ) 介護度別 延入所状況

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
平成 30 年度	33	33	451	446	995	755	572	3,285
令和元年度	93	19	260	702	1,310	287	625	3,296

短期入所 介護度別延べ利用状況



7. 通所

ご利用者のニーズやご家族の意向を可能な限り尊重し、各居宅介護支援事業所等との連携のもと、ご利用者からの要望などを取り入れた満足度の高いサービスの提供に努めました。

令和元年度は、施設への長期入所や重度利用者の老人保健施設の利用等により、複数

回利用者の減少もありましたが、包括支援センターや各居宅介護事業所との連携により、要支援者・要介護者共に多くの新規利用者の受け入れを行うことが出来ました。

令和元年度は延べ利用者数・平均利用率共に前年度を上回る結果となりました。年間延べ利用人数（前年実績比：110名増の6,101名）・1日平均利用率（前年実績比：1%増の81.7%）と、微増ではありますが、平成30年度実績を上回ることができました。今後も引き続き、業務の見直し・改善を図り、与謝の園通所介護事業所としての特色を出しつつ、ご利用者のニーズに応じたサービスが提供できるように努めます。

①利用実績

（ア）要介護者及び要支援者延べ利用者数及び利用率

年度 \ 区分	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
平成30年度	24名	309日	5,991名	80.7%	1.9
令和元年度	24名	311日	6,101名	81.7%	2.4

（イ）介護度別利用状況

年度 \ 介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成30年度	1,476名	1,842名	1,028名	165名	560名	5,071名
令和元年度	1,281名	1,779名	1,408名	122名	586名	5,176名

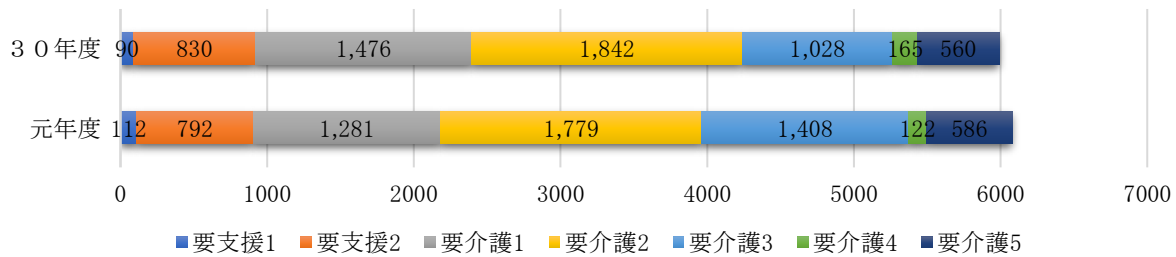
（ウ）介護度別利用状況 介護予防

年度 \ 介護度	要支援1	要支援2	事業対象者	合計
平成30年度	90名	830名	0名	920名
令和元年度	112名	792名	21名	925名

（エ）加算の状況

加算項目 年度		入浴加算	送迎減算	提供体制	処遇改善	特定処遇改善
平成 30 年度	要介護	4, 413	143	5, 058	713	
	要支援 1			24	151	
	要支援 2			127		
令和元年度	要介護	4, 802	357	5, 187	721	348
	要支援 1			33	142	71
	要支援 2			113		

通所介護 介護度別延べ利用状況



8. 訪問介護

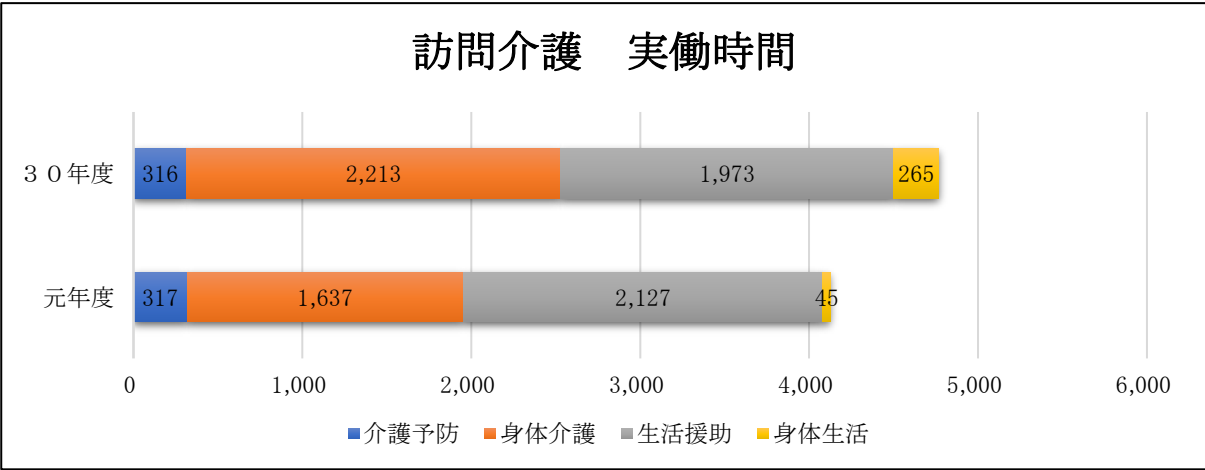
各居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターや関係機関等との連携により、在宅での自立的な生活の維持・継続を目標に質の高い介護サービスの提供に努めました。

令和元年度の特徴としては、職員体制が整わず時間・曜日指定がある方への訪問が行えない状況となり身体介護の時間が約 500 時間減り、反対に生活援助（調理・買い物・掃除等）の利用が約 150 時間増えました。新たなケースとして認知症の診断を受けたご利用者から一緒に調理を行い少しでも出来る事を増やしたいという思いで援助に入る事が出来ました。また短期間ではありましたが最期は自宅で過ごしたいというご利用者の思いを尊重し訪看と連携を行いながら訪問する事が出来ました。

今後も全職員、同レベルのサービスが提供できるように積極的に会議や研修に参加し、職員の質の向上に努めます。また、ご家族の思いやご利用者の状態の変化に早く気づき、関係機関との連携を密にし、状況にあった介護サービスの提供が出来るように努めます。

イ 介護度別利用状況及び実働時間数

	年度	介護予防サービス		介護サービス					障害者 支援	合 計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5		
契約人数(人)	平成30年度	4	3	12	16	19	2	7	0	63
	令和元年度	3	9	11	9	14	3	14	0	63
介護予防(h)	平成30年度	316 時間 35 分								7%
	令和元年度	317 時間 17 分								8%
身体介護(h)	平成30年度	2,213 時間 25 分								46%
	令和元年度	1,637 時間 55 分								40%
生活援助(h)	平成30年度	1,973 時間 05 分								41%
	令和元年度	2,127 時間 25 分								51%
身体生活(h)	平成30年度	265 時間 30 分								6%
	令和元年度	45 時間 30 分								1%
合 計	平成30年度	4,768 時間 35 分								100%
	令和元年度	4,128 時間 7 分								100%

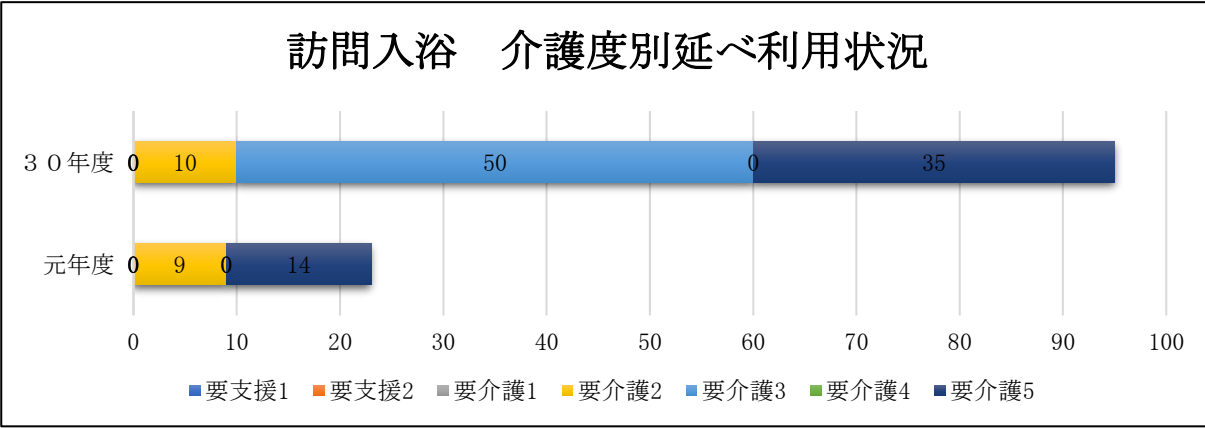


9. 訪問入浴

- ・令和元年度も実施日数、契約者数、利用者数など全体的に大幅な減少がみられました。その理由として考えられることは、ターミナル・老衰で契約終了となっていく中、職員調整が出来ず新規利用者の受け入れが困難となった為と考えます。
- ・重度のご利用者も多く医療的処置（在宅酸素・胃瘻・尿バルーン・褥瘡処置など）を有するご利用者にも安心して入浴していただきました。

①利用状況

		介護予防サービス		介護サービス					合 計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
契約人数	平成 30 年度	0	0	0	3	7	0	5	15
	令和元年度	0	0	0	1	0	0	1	2
実施日数	平成 30 年度	0	0	0	4	16	0	11	31
	令和元年度	0	0	0	9	0	0	14	23
延利用人数	平成 30 年度	0	0	0	10	50	0	35	95
	令和元年度	0	0	0	9	0	0	14	23
日平均利用人数	平成 30 年度	0	0	0	0.25	3.1	0	3.2	6.6
	令和元年度	0	0	0	0.36	0	0	0.56	0.92



10. 居宅介護支援

令和元年度より、ケアマネジャーを1名増員し4名体制となりました。

近隣の居宅介護支援事業所が新規を受けにくい状況の中、依頼があれば積極的に相談に応じ、なるべく早くサービス利用につなげることができるよう、地域包括支援センターや医療関係者、サービス事業所などと連携して対応しました。

一方で、老健や特養への入所、病状悪化による入院や終末期、要支援認定などにより給付を外れるケースも多くあり、給付管理件数は月当たり125～134件、年度を通しての平均は130件でした。

医療と介護の連携のために、ご利用者の入退院に際しては、速やかに入院時情報提供シートの送付や面会により地域連携室と情報交換し、退院前訪問やカンファレンスに参加するなど、状態の把握や本人、介護者の意向の確認に努めました。

また、例年通り、地域ケア会議やケアマネ連絡会、各種研修への参加を通じて、多職種や他事業所と交流を深めることができ、認知症カフェに毎回参加することで、地域の方と顔なじみの関係を築くことができました。

今後も与謝野町地域の高齢者やその介護者が、住み慣れた地域や家庭で安心して生活が継続できるよう、関係機関との連携を強化するとともに、ケアマネとしての資質の向上に努め、ご利用者やご家族から信頼される相談業務を行っていききたいと思います。

(ア) 内容別相談件数

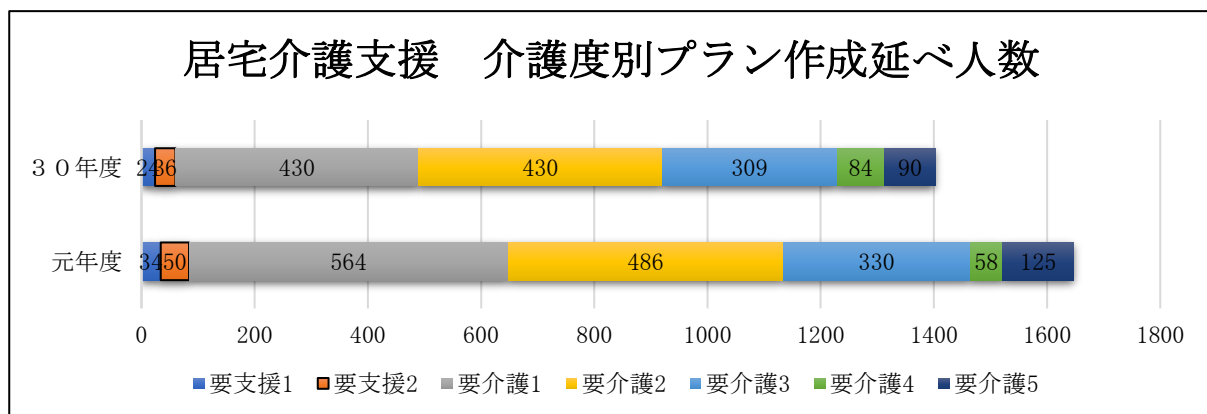
年度	内容	介護保険その他 福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
平成30年度	実数	154	0	0	2	156
	延数	8,783	0	0	5	8,788
令和元年度	実数	216	1	5	5	227
	延数	11,396	4	15	14	11,429

(イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理実件数
平成30年度	154
令和元年度	190

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

年度	介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成30年度		24	36	430	430	309	84	90	1,403
令和元年度		34	50	564	486	330	58	125	1,647



1 1. 与謝の園診療所

今年度は、受診の待ち時間や移動の負担を考慮し、往診を多く取り入れ、ご利用者がいつもの環境で負担なく診療を受けてもらえるよう工夫しました。

【入居者の診療状況及び健康診断等実施状況】

①診療状況

(ア) 与謝の園

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
平成30年度	実数	102	0	0	0	0	0	0	0
	延数	3839	0	0	0	0	0	0	0
令和元年度	実数	105	1	0	5	0	40	0	0
	延数	3783	40	0	17	0	63	0	0

(イ) 他の医療機関 通院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
平成30年度	実数	21	9	5	2	1	5	9	4
	延数	25	22	10	11	1	29	47	6
令和元年度	実数	27	18	3	0	7	8	9	8
	延数	34	38	6	0	21	16	49	11

(ウ) 他の医療機関 入院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
平成30年度	実数	13	2	0	0	1	0	0	1
	延数	159	31	0	0	5	0	0	9
令和元年度	実数	15	5	0	0	4	0	0	0
	延数	268	67	0	0	65	0	0	0

②健康診断等の実施状況（実施日時）

年度	対象人数	胸部集団検診	検尿検査	血液検査	歯科健診
平成 30 年度	80	平成 30 年 10 月 29 日	平成 31 年 2 月 1 日	平成 30 年 6 月 14 日 平成 30 年 12 月 17 日	平成 30 年 10 月 1 日
令和元年度	80	令和 1 年 10 月 28 日	令和 2 年 2 月 1 日	令和 1 年 6 月 20 日 令和 1 年 12 月 18 日	令和 1 年 9 月 25 日

12. 事務

【職員研修参加状況】

① 施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
身体拘束ゼロ委員会/認知症ケア部会主催	37	認知症と不適切ケア～素敵な距離感を作ろう～ 丹後保健所 西邑 章
身体拘束ゼロ委員会/認知症ケア部会主催	51	不適切ケアについて グループ討議
褥瘡対策委員会主催	32	老年期にある対象の特徴をとらえたポジショニング・シーティング
サービス向上委員会/排泄部会	21	排泄ケア陰部洗浄について
感染症対策委員会主催	51	インフルエンザ流行についての検証
感染症対策委員会主催	34	適切な汚物処理
安全衛生委員会主催 10/25	34	腰痛予防
安全衛生委員会主催 1 回目消防避難訓練	53	消防設備、消防訓練について
協会けんぽ「健康講座」	15	運動推進・生活習慣病予防の取り組み
リスクマネジメント委員会	35	リスクマネジメントについて考える
リスクマネジメント委員会	55	苦情受付の疑似体験
医療ケア委員会（看取り）	51	「看取り」について理解を深める。
研修委員会	50	介護現場における観察力について
ユニットケアについて	全職員	「私が私で居られる場所」DVD 鑑賞
ユニット内ミニ勉強会	介護全員	吸引の仕方
ユニット内ミニ勉強会	介護全員	服薬マニュアルの確認
ユニット内ミニ勉強会	介護全員	陰部洗浄
ユニット内ミニ勉強会	介護全員	認知症ケアについて
ユニット内ミニ勉強会	介護全員	褥瘡について体験学習
訪問入浴介護事業所研修会 （研修計画に基づき年間 12 回開催）	48	接遇マナー、事例検討、冬場の入浴の寒さ対策、感染症について等
訪問介護事業所研修会 （研修計画に基づき年間 12 回開催）	65	プライバシー、事例検討、認知症、口腔ケア、感染症について、食中毒について等

②施設外研修

② 研修・会議名	参加人数	研修内容
バリアフリー展	2	バリアフリー2020
平成31年度キャリアアップ研修（初任者）	2	初任者研修
高齢者・障害者施設職員感染症予防対策研修会	2	感染症の基礎知識を深め、集団感染予防対策を学ぶ
京都府認知症介護実践者等養成研修	2	京都府認知症介護実践者等養成研修
京都府認知症実践者リーダー研修	2	京都府認知症実践者リーダー研修
2019年ユニットリーダー研修	1	ユニットケアの理念と意義、実践のポイント
2019年ユニットケア施設管理者研修	1	ユニットケア施設管理者研修
第4回摂食嚥下障害看護研修会	1	在宅介護に携わる看護介護職向けセミナー
2019 中庄総合 FOODO FAIR	2	グルメから介護食まで
平成30年度特定給食施設従事者講習会	1	
平成30年度看取りサポート人材養成研修	1	最期まで自分らしく生きる
平成30年度民間社会福祉施設長研修会	1	講演：災害時支援の取り組み 指導監査の着眼点
第1回デイサービス職員研修	1	デイサービス見学ツアー&職員交流会（北部コース）
第2回デイサービス職員研修	2	デイサービス見学ツアー&職員交流会（南部コース）
高齢者入所施設と北部医療センターとの連携会議	2	認知症ケア
令和元年度福祉避難サポートリーダー養成研修	1	災害時要配慮者の対応について考える
酒井医療 ショールーム見学	3	
看取り基礎研修	1	在宅・施設の看取りについて
福祉リーダーの極意を学ぶセミナー	1	リーダーシップ論
2019年度喀痰吸引等京都府指導者研修	1	指導看護師養成研修
2019年喀痰吸引等京都府指導者研修	2	指導看護師フォローアップ研修
若年性認知症支援研修会	3	若年性認知症の方の支援を考える
丹後地域認知症カフェ連絡会	1	認知症カフェでリハビリテーションの視点を活かした当事者支援を考える
福祉即戦力人材養成科実習指導者研修	1	
平成31年度企業内人権啓発推進研修会	1	企業内人権問題啓発セミナー・学卒求人説明
リーダー論、リーダーに必要な考え方や行動	5	
職場リーダー養成研修 in 与謝野	2	職場の人間関係が楽になる
組織活性化研修 in 与謝野（2回）	27	対人援助の基本姿勢・職場活性化

障害者・高齢者虐待防止と施設・事業所職員のメンタルを考える研修会	1	身体拘束と虐待について
宮津市・企業人権教育推進協議会	1	「インターネットと人権問題～現状と課題～」
宮津市・企業人権教育推進協議会	1	職場のハラスメントに関する社内相談対応の基礎知識と対応」
令和元年度難病患者支援従事者研修会	1	多系統萎縮症、大脳皮質基底核変性症患者の在宅療養生活支援について
栄養士等ネットワーク推進研修会	1	災害時の栄養管理について
看護職・介護職リハビリテーションステップアップ研修	3	ポジショニング
京都府介護支援専門員実習受け入れ協力事業所指導者講習	1	介護支援専門員実習受け入れについて
丹後保健所管内栄養士研究会	1	丹後保健所管内栄養士研究会総会 研修会
第9回在宅療養コーディネーター養成・フォローアップ研修	1	意思決定支援について
医療と介護の連携推進研修会	1	医療介護連携の取り組み
丹後圏地域リハビリテーション第3回事例検討会	1	在宅看取りとリハビリテーション
介護保険施設、障害者入所施設研修会	1	障害者・高齢者虐待防止とケアの向上を考える

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	月	学校・事業所名
6月	与謝野町立加悦中学校（職場体験）	9月	福祉即戦力人材
	京都府立看護学校	9月	鈴鹿医療科学大学
7月	京都暁星高等学校		

【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
喫茶ひまわり	喫茶お手伝い	1	4
シーツボランティア	シーツ交換	11	78
傾聴ボランティア	話し相手。	19	52
かるかも会	補修（衣服の繕い）	6	20
車椅子清掃ボラ	車いす清掃	3	12
桑飼小学校	交流会	2	26
桑飼保育園	交流会	1	14
あかかぶ会	車椅子清掃	1	8
虹いろ一座	銭太鼓	1	8
加悦地区婦人会	清掃	1	11

竹村夫妻	ハーモニカ演奏	1	2
メナード	エステ	6	14
明石神楽保存会	明石神楽舞	1	11
明石庄ヶ崎地区子ども神輿	子ども神輿	1	10
こどもの森保育園	交流会	1	13
傾聴ボラ（個人）	話し相手。折り紙	4	4
		60	287

【各種会議開催状況】

会 議 名	開催回数／年
主任会議	1 2 回/年
リスクマネジメント委員会	6 回/年
サービス向上委員会/行事部会	1 2 回/年
サービス向上委員会/ケア記録部会	4 回/年
サービス向上委員会/排泄部会	4 回/年
研修委員会	1 2 回/年
サービス自己評価委員会	6 回/年
感染症対策委員会	6 回/年
身体拘束ゼロ委員会	6 回/年
褥瘡対策委員会	4 回/年
医療的ケア委員会	4 回/年
夏祭り実行委員会	7 回/年
部署間連絡会議	6 回/年
入所検討会議	1 2 回/年
安全衛生委員会	1 2 回/年
インフルエンザ対策会議	3 回/年

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9 月 9 日	85 名	年 1 回
腰痛健診	9 月 9 日、2 月 10 日	76 名、61 名	年 2 回
深夜業務従事者健診	3 月	31 名	年 1 回
ストレスチェック	9 月	85 名	年 1 回

令和元年度 社会福祉法人北星会

天橋の郷 事業報告書

【年度統括】

○基本方針 重点項目

1. 地域の社会資源の一つとして、最後の瞬間までその人らしく、一人ひとりの尊厳が守られるよう実践する。

(報告事項)

- ・令和元年度、全事業所において昨年度比で利用数は上昇。地域において支援を必要とする方々の生活を守るお手伝いことができました。また、看取り数は17件あり、天橋の郷が人生の最期を迎えることのできる施設として認められつつあります。

2. 介護・医療の連携、他職種協働を推し進め、地域包括システムの取り組みに寄与できるように努める。

(報告事項)

- ・毎月開催される宮津市の地域ケア会議に参加し、情報を得るとともに多職種、多施設との連携に努めました。
- ・施設に所属する言語聴覚士が介護、看護、調理といった施設職員とコミュニケーションを図り、その専門性を施設全体のケアに活かし活躍できるよう、相談部門に配置しました。

3. 人材不足を補うために、多様な働き方や人材登用を行い、人材育成に努める。

(報告事項)

- ・高齢で未経験の方でも就労できる家事的な業務を専門に行う介護補助職員を採用しました。これにより、介護福祉士等は介護に専念でき、負担軽減にもなるように配置しました。
- ・ユニット毎で行っていた業務を2もしくは3ユニットが協力して実施することとし、各種会議や委員会への参加者を限定。シフト調整も容易となるようにしました。
- ・今年度も業務等の検証をすすめ、職員の業務改善を図ります。

○中長期目標

1. 介護ロボットの導入を図り、現場の負担軽減と質の向上を図る。

(報告事項)

- ・令年度末、特に職員導線の長い2ユニットに入居者見守りシステム「眠りスキャン」を導入。今後、システムの有効活用と効果の検証を定期的に行い、業務改善に努めます。

2. 天橋の郷の介護マインドを深め、ケアの充実を目指す。

(報告事項)

- ・年度当初に施設長から職員全員に対し施設の運営方針等説明し周知、また、毎月全主任参加による会議を行い、施設の運営について協議することとしました。
- ・今年度、10数名の職員配置を変更し、業務の平準化に努めます。

3. 老朽化した設備・備品の入替え・修繕を計画的に進め、安心・安全・快適な居住環境作りに努力する。

(報告事項)

- ・年間を通して空調設備の状況を確認し。改修方法の検討を行い、今年度工事を実施します。

○令和元年度目標

1. 新たな人材確保に努め、職員育成に努める。

(報告事項)

- ・新人には、施設長が任命したプリセプターを中心に丁寧に育成を行いました。
- ・職員個々の都合を他職員が理解し、共に勤務するための意識改革に努めました。

2. 医療機関や居宅事業所等と連携し、地域の実情把握を行い必要なサービスや取り組みを実施する。

(報告事項)

- ・地域ケア会議等で得た情報をもとに、今後必要となる可能性がある業務の検討を開始します。

3. 空調設備、LED照明の導入等を順次計画検討し、環境整備を行う。

(報告事項)

- ・今年度、空調設備及び照明設備の変更仕様を確定し、改修を実施します。

【事業報告】

1. 特別養護老人ホーム

①入居利用者の状況

(ア) 稼働率（入居定員： 70 名）

区分 年度	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
30年度	365 日	25,353 人	197 床	69.4 人	99.1%
元年度	366 日	25,537 人	83 床	69.7 人	99.6%

(イ) 契約数

区分 年度	新規入居者	待機者	施設看取り	施設外死亡	施設移転	帰宅
30年度	21 人	69 人	12 人	1 人	1 人	0 人
元年度	18 人	85 人	17 人	0 人	0 人	0 人

(ウ) 地区別 入居状況

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
30年度	81 人	6 人	1 人	3 人
元年度	78 人	6 人	1 人	3 人

(エ) 年齢・性別 入居状況

区分 年齢 性別	60～64		65～69		70～79		80～89		90～99		100 以上		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
30年度	0	0	0	0	1	4	6	21	4	30	0	3	11	58
元年度	0	0	0	0	1	3	5	25	3	30	0	3	9	61
平均年齢	30年度		男性		87.9 歳		女性		90.4 歳		合計		89.1 歳	
	元年度		男性		87.1 歳		女性		89.8 歳		合計		88.4 歳	

(オ) 入居期間別 入居状況（特養）

期間 区分	6 か 月 未 満		6 か 月 以 上 1 年 未 満		1 年 以 上 3 年 未 満		3 年 以 上 10 年 未 満		10 年 以 上		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
30年度	1	5	1	8	6	20	3	19	0	6	11	58	69
元年度	1	6	0	10	2	18	6	22	0	5	9	61	70
平均入居期間	30年度				5 年 1 か月								
	元年度				3 年 6 か月								

(カ) 入居期間別 延入居状況（特養）

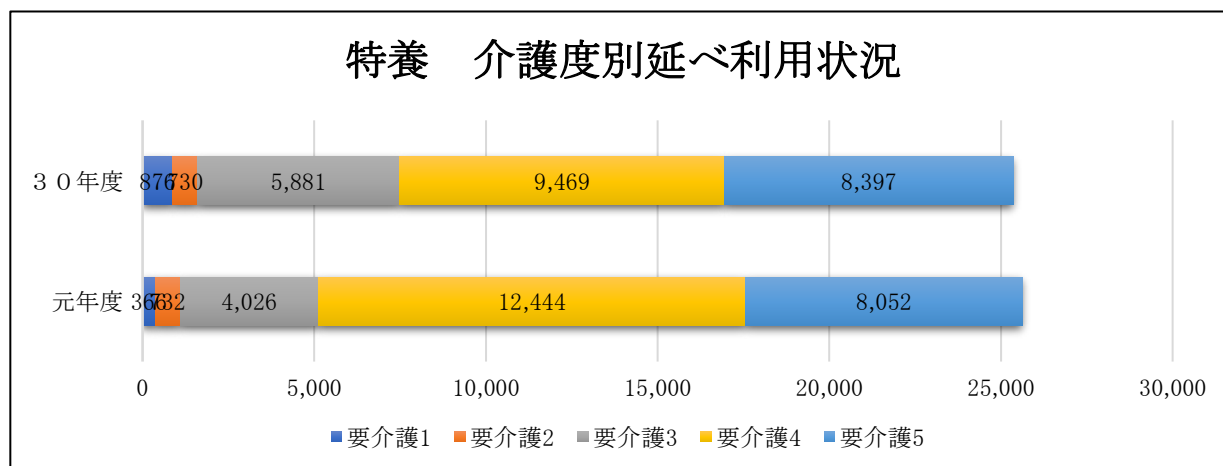
期間 性別 年度	6 か月未満		6 か月以上 1 年未満		1 年以上 3 年未満		
	男	女	男	女	男	女	
3 0 年度	3 人	11 人	2 人	12 人	9 人	22 人	
元年度	1 人	7 人	1 人	12 人	3 人	22 人	
期間 性別 年度	3 年以上 10 年未満		10 年以上		計		合 計
	男	女	男	女	男	女	
3 0 年度	3 人	24 人	0 人	7 人	17 人	76 人	93 人
元年度	6 人	27 人	0 人	7 人	11 人	75 人	86 人

(キ) 介護度別 入居状況

介護度 性別 区分	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
30年度	0	2	0	2	3	10	5	24	3	20	11	58
元年度	0	1	0	2	4	7	3	31	2	20	9	61
平均要介護度	30年度		4.0		元年度		4.1					

(ク) 介護度別 延入居状況

介護度 区分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
30年度	876 人	730 人	5,881 人	9,469 人	8,397 人	25,353 人
元年度	366 人	732 人	4,026 人	12,444 人	8,052 人	25,620 人



2. 介護部

看取り期を迎えられた入居者とそのご家族に、安心して温もりを感じて頂けるケアを心掛けて対応する事が出来ました。新規入居者には、他部署との連携を密に図りながら安全で居心地の良い環境を提供できるよう努めました。今年度も人員体制の厳しい現状がありましたが、各ユニット・職員がコミュニケーション力を発揮しながら入居者の尊厳を守ったケアを実施することが出来たと感じています。

入居者の超高齢化・重度化が進む中において、施設が地域社会との繋がりを広げる役割を担えるように他職種協働の意識を一層高めていきたいと思っています。

- ・ 暁ユニット：入居者の様子をしっかりと観察し事故の無いように早目に対応を行ってきましたが、今年度は新規入居者3名を迎える中で業務に追われ、ユマニチュードの実践にまでは踏み込めないのが現状でした。

次年度はユマニチュードの実践に向けて、報連相に努め他部署との連携を図り職員間の情報共有を密にし、入居者一人ひとりとじっくり関わりが持てるよう業務改善に取り組みます。

- ・ 泉ユニット：丁寧な言葉使いや対応を心掛け、一人一人の想いを汲み取れるようケアに努めましたが、伝達不足や情報共有が出来ていない部分も見え、統一したケアには至らない事があったので、しっかりとコミュニケーションを図りながら日々のケアに活かしていきます。

入居者にとって不安や負担が軽減出来るよう、またご家族とも良い関係が築けるよう信頼の構築に努めました。安心の中で穏やかに生活して頂き、一人一人の関わりを大切にしたいケアが出来るよう取り組みます。

- ・ 紅ユニット：入居者の方の思いや生活リズムを尊重し、安心安全に生活が送れるように考えながらのケアの提供が行えました。入居者の日々変わる状態について職員間で話し合うことを意識して、抱えておられる不安の軽減と機能維持に努めてきました。しかし、限られた業務時間の中で職員がゆとりをもって接することが難しい時もあり、また他部署との連携が図れていない部分があったので、今後の課題として改善を進めていきます。

- ・ 翠ユニット：ユニット目標に対して、総合的に高い意識を持って前向きな姿勢で取り組めたと思います。その中でも、看取りケアを行なう上で、よりその方やご家族に目を向け、その方の意志に添えるよう、スタッフ間で細かな共有と柔軟な対応に努める事が出来ました。

残された人生に生きるものの意味や価値を高められたのか、私達には知る事が出来ませんが、これからも常に知りたいと思う気持ちを持ち、知ろうとする事を惜しまず、知り得た情報を共有し、様々な視点からその方を見ることで、個々の思いにより近づき、その思いを支えたいと考えます。良質なケアを行なうためには、スタッフの心のうるおいも重要だと考えますが、新人を迎えた今、再度自己分析・自己覚知をしっかりと行ない、チームで自己研鑽を積み、より質の高い介護力と強いチーム力で「あなた達なら安心」の気持ちを深めます。

- ・ 茜ユニット：ユニット目標に掲げたように、入居者の生活スタイルや想いを尊重できるよう、職員間や支援・医務・調理など他部署や家族と連携し検討を重ねながら快適に過ごして頂けるように状態に合わせたケアが出来たと思います。職員間での意見交換や情報交換、情報共有はもちろん、職員一人一人の専門職としての意識向上にも繋がりました。

ご家族を交えたカンファレンス開催の実施などでは、ご家族との信頼関

係をより深められるように努めました。今後も入居者に対する「思いやり」や「尊厳」を忘れず入居者の笑顔が増え安心して最期まで暮らせる場になるようより一層のチームケア力向上を目指します。

- ・和ユニット：入居者一人ひとりの思いを汲み取り、思いに添った支援が出来たことが入居者・ご家族にとっては安心感に、職員にとっては達成感に繋がりました。また、職員間においてもしっかりと連携を図ったことで統一したケアが出来たと思います。

ご家族とは日頃からコミュニケーションをしっかりとる事で理解と信頼が得られ、看取りケアにおいてもご家族と共通の思いで看取る事ができたと感じます。ご家族からの労いの言葉は職員にとって励みとなりケアの向上へと繋がりました。経験を積み重ね、満足度の高いケアを提供できるように成長していきたいと思います。

- ・梓ユニット：尊厳を支える意識を持って一人ひとりの様子をしっかりと確認し、その日その時の状態に合わせて対応できるよう努め、その思いの表出とその人の持っている力を伸ばす等の成果がありました。

看取りケアへ移行された方々にも、食事摂取の状態や日中の様子等、ご家族の思いも汲み取れるよう努め職員間で報告・伝達し情報共有出来ていたと思います。職員個々にリスク・関わり・ケアのあり方について意識の違いや、同様に入居者に対する「思いやり」や業務全般に対する意識にも差を感じる所がありましたが、職員間で情報共有を密に行い職員一人ひとりがしっかり「意識」と「思いやり」を持ち一丸となって、温度差のない関わり・ケアを実施し入居者が潤いや楽しみを持って生活できるよう努めます。「最後まで寄り添う」「穏やかに過ごして頂く」「機能を保つ」「自己実現を目指す」それぞれのレベルに応じたケアが過不足なく実施できるようにバランスを取っていきます。

3. 看護部

重度化した入居者も多く、基本的な高齢者の特性や加齢による身体的・精神的変化などを理解した上で入居者個々を知り、日々の生活に寄り添った看護を提供する事が出来ました。

この成果は、嘱託医・かかりつけ医の協力のもと、他職種や他機関との連携を常日頃から密に取り合い、入所～終末期においてもチームケアとして個別ケアに取り組む事が出来たからだと思います。今後も継続し、質の高いケアが提供できる様、また入居者が安心・安楽に過ごせるように努めていきます。

一人一人が看護師としてチームリーダーとしての役割が果たせるように周囲のスタッフの協力を得ながら行う事が出来たと思います。

今年度も信頼関係を大切に知識・技術の向上に努めていきたいと思っています。

①診療状況（天橋の郷）

（ア）天橋の郷

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
30年度	実数	92	4	0	8	0	3	0	0
	延数	596	12	0	60	0	34	0	0
元年度	実数	87	5	0	7	0	5	0	0
	延数	735	15	0	17	0	70	0	0

（イ）他の医療機関 通院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
30年度	実数	20	11	6	1	1	1	3	0
	延数	30	18	12	4	1	1	5	0
元年度	実数	7	12	4	0	1	0	0	0
	延数	10	23	8	0	1	0	0	0

（ウ）他の医療機関 入院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
30年度	実数	8	2	0	0	0	0	0	0
	延数	9	2	0	0	0	0	0	0
元年度	実数	2	1	0	0	4	0	0	0
	延数	2	1	0	0	4	0	0	0

②健康診断等の実施状況（実施日時）

	対象人数	胸部集団検診
30年度	69	平成30年10月30日
元年度	70	令和元年10月29日

4. 支援室

新規入所者の受け入れについて、他事業所・居宅介護支援事業所・地域医療連携室等と密に連携を取りながら事前準備をしてきたことで、空床日数を前年度の197床から今年度は83床とおおきく減らすことができ、稼働率は目標を上回りました。

加算についても、新たに排泄支援加算、認知症ケア加算、経口維持加算を算定し、収入アップに繋がったのではないかと思います。

看取りについては、看取り移行前後のカンファレンスを頻回に行う事で、多職種が連携し意見交換も活発になり、本人・家族の意向や状況をしっかり共有しながら進める事ができるようになり看取りへの移行がスムーズに行われました。看取り加算についても昨年度は死亡された方の54%の算定に留まりましたが、今年度は82%の方に算定できました。

(ア) 相談件数

区分 年度	入所相談	在苑者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合 計
30年度	101 件	4 件	24 件	0 件	0 件	129 件
元年度	110 件	3 件	21 件	0 件	0 件	134 件

(イ) 待機者数 (地区別)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合 計
30年度	39 人	25 人	0 人	5 人	69 人
元年度	49 人	19 人	6 人	11 人	85 人

(ウ) 待機者数 (介護度別)

介護度 年度	要支援・他	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
30年度	0 人	0 人	0 人	38 人	22 人	9 人	69 人
元年度	0 人	0 人	2 人	64 人	14 人	5 人	85 人

(エ) 退去状況 (特養)

退去先 年度 区分		自宅 家族宅	医療機関 (入院)	看取りによる 死亡	その他	合 計
30年度	人数	0 件	1 件	12 件	9 件	22 件
	比率	0%	5%	55%	40%	100%
元年度	人数	0 件	0 件	17 件	0 件	17 件
	比率	0%	0%	100%	0%	100%

5. 給食部

ご利用者が毎日の食事が楽しみとなるように、美味しさ、季節感、彩、栄養価を考え、チームとして効率よく業務に当たれるようにコミュニケーションをとりながら努めました。

介護食を必要とするご利用者も多くなり、ゼリー食や刻み食、そして個別の特別代替え食作り、提供にも他部署と連携しながら努めました。

配食弁当は、ご利用者の代替え食ニーズにも答えながら調理し、丁寧に盛り付けて安否確認を兼ねてお届けしました。

①提供実績

(ア) 延食数

区分 年度	特養	短期入所	通所
30年度	25,064 食	6,832 食	12,232 食
元年度	25,372 食	6,843 食	12,226 食

(イ) 栄養基準（１日あたり）

項目 区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (μgRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基準	1,400	50	550	30	6	560	1	1	100
30年度	1,449	57	483	40	5.3	431	0.7	0.9	70
元年度	1,449	56	473	41	5.1	450	0.7	0.9	72

(ウ) 食品群別摂取量（１人１日当たり食糧構成）

（単位：g）

群 類 区 分	1 群		2 群						3 群					4 群		
	牛乳乳製品	卵類	魚介類	獣鳥肉類	豆類	大豆製品	味噌	堅果類	緑黄色野菜	淡色野菜	果実類	芋類	海藻類	米	麦	油脂
基準	250	20	70	50	50			1	80	150	50	40	5	180		3
今年度平均	275	18	66	52	42			1	84	151	52	39	2	177		3

6. 短期入所

北星会内はもちろん、他法人の居宅・ＳＳ・訪問看護などとの連携強化に努め、情報交換を密に行うこと・信頼関係の構築などが出来ました。

連携強化により、ご利用者・ご家族のニーズに添ったより質の高いケアの提供に繋がったと思います。地域で暮らすご利用者・ご家族の在宅生活の支援に加え、在宅生活が困難になった時にスムーズな施設利用・施設入所に繋がるよう、橋渡し役としての役割も徐々に確立できてきていると感じています。

終末期のＳＳ利用に関して、ご家族・ケアマネを中心に医療・介護が協働する事で、できる限り要望に応えられるよう調整を行いましたが、実際に利用に繋がることは少ない状況でした。ご家族と施設との終末期における理解をすり合わせる事が難しかったケースもあり、双方が納得できるような説明を行う等、終末期の受け入れマニュアルの見直しの必要性を感じました。

稼働率は事業計画の94.5%とほぼ同様の数字となっています。利用期間や要望のニーズの変化を考えると稼働率アップは容易でなく、業務や加算の見直しを行う必要を感じています。

・介護部

昨年度に続き、十分な職員の体制を確保出来ない中でサービスの向上・維持を図りながら日々のご利用者対応に当たりました。余暇活動など、十分に時間を確保することが困難な状況もありましたが、個別ケアをしっかりと意識しながら個々のご利用者の意向や状況に応じた対応を行い、満足度の維持・向上に努めることが出来ました。

特養・老健へ介護度の高い方が入所されることで、ご利用者の平均介護度低下が見られますが、常時の見守り・付き添いが必要な認知症の方の利用増加にも繋がり、数字には表れないスタッフの負担が増えています。また、滞在日数が短い方も多くなっ

ており、入退所の頻度が上がっている事で、ここにもスタッフの負担増加がみられます。今後もこの状況が続くと考えられる為、業務見直しや対応策を講じて改善を図っていきたいと思います。

昂ユニット：「また来たい」と思っただけのサービスの提供を目標に掲げて前年度から取り組んできた事で、職員の意識付けが出来ました。ご利用者の思いを尊重しながら施設での生活を不自由なく過ごしていただくことで、ショートステイとしての役割が果たせたのではないかと感じています。

また、職員の欠員や体調不良があり人員体制が整わない中で継続して従事する職員の負担が大きくなっている現状があり、早急に業務改善に取り組み職員の負担軽減を図らなければならないと感じています。

虹ユニット：『おもてなしの心』を目標に掲げ、職員一人一人が意識をもって業務にあたることが出来たと思います。厳しい人員体制や新人の育成も重なり、余裕もなくバタバタとしてしまうことがありましたが、その中でも短時間のコミュニケーションや趣味や好みに合ったレクリエーションなどを少しでも提供できるように努めました。

これからも個別ケア、個別のレクリエーションを提供していけるように努めます。

①利用者の状況

(ア) 稼働率（定員：20名）

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
30年度	365日	6,919人	19.0人	94.8%
元年度	366日	6,936人	18.9人	94.7%

(イ) 契約数

年度 \ 区分	新規入所者
30年度	62人
元年度	48人

(ウ) 地区別 入所状況

年度 \ 地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
30年度	125人	2人	0人	1人
元年度	141人	2人	0人	1人

(エ) 介護度別 入所状況

介護度 性別 年度	要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
30年度					7	26	10	34	7	21	3	11	3	6	30	98
元年度					1	24	9	31	15	27	5	11	6	8	36	101
平均要介護度	30年度				2.45				元年度				2.49			

(オ) 要支援度別 入所状況

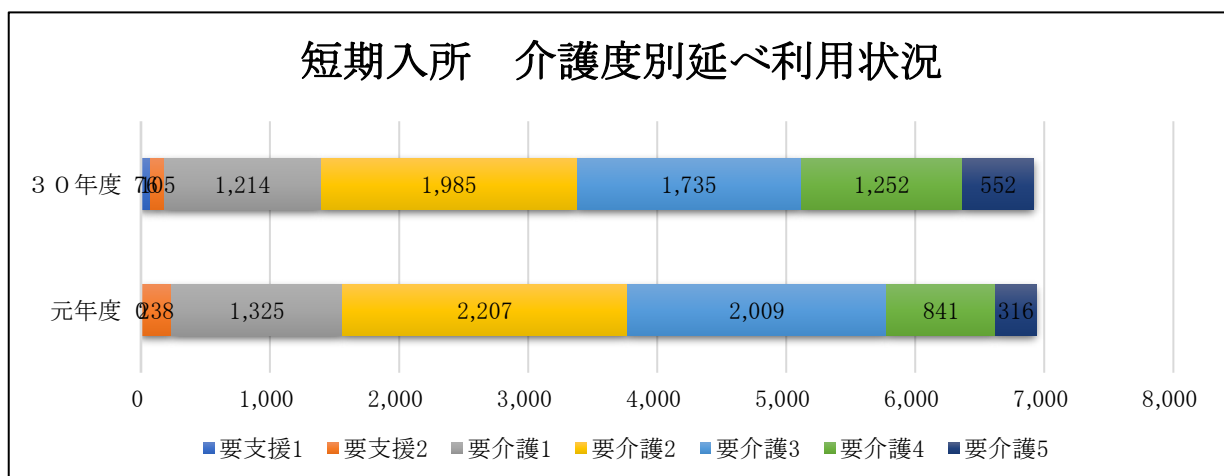
要支援度 性別 年度	要支援 1		要支援 2		合 計	
	男	女	男	女	男	女
30年度	2	1	2	4	4	5
元年度	0	0	2	5	2	5

(カ) 介護度別 延入所状況

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
30年度	76 人	105 人	1,214 人	1,985 人	1,735 人	1,252 人	552 人
元年度	0 人	238 人	1,325 人	2,207 人	2,009 人	841 人	316 人

(キ) 加算の状況

加算項目 年度	機能訓練体制 加算	サービス提供 体制加算Ⅰ 1	夜勤職員配置 加算Ⅱ	在宅中重度者 受入加算 4	送迎加算	処遇改善 加算Ⅰ
30年度	4,432	6,919	6,738	10	2,402	1,058
元年度	6,935	6,935	6,697	14	2,471	1,073
加算項目 年度	特定処遇改善 加算Ⅰ					
30年度						
元年度	537					



7. 通所

在宅生活を望まれるご利用者やご家族の思いを大切に、デイサービス利用が楽しみと生きがいとなるようサービスの内容の充実に努めました。又ご利用者がデイでの一日を快適に安心して過ごして頂けるよう日々の状態変化に対する“気づき”の意識を職員全員が持ち、情報交換し、報連相の徹底に努めました。生活機能、運動機能の向上を目的とし、午前は機能訓練士によるリハビリ体操・昼食前の口腔体操を実施、午後は3～4のグループ活動を実施し自立支援への意識が高められるように、ご利用者自ら活動内容を選択する当初からの「京都式選べるデイサービス」を継続しました。

年間計画に基づいて、

創作…ハーバリウム、刺し子等を製作しフェスタにて展示販売。

園芸…季節の野菜を栽培収穫し、調理レクへと繋げました。皆さん熱心に作業に集中され、充実感、達成感、満足感が得られたと喜んでいただき職員も元気を頂きました。

運動…従来のペタボード・スカイクロス他…も継続しつつ、職員発案の楽しい手作りゲームなども繰り広げてきました。笑い声がホールに響きとても活気がありました。

脳トレ（クイズ・カラオケ）…四季の風景や時代背景が浮かんでくる歌等を通して語り合ったり、クイズを解説、数字の計算などを通して認知症予防に努めました。その他にも四季折々の行事や月ごとにテレビボーリング大会を行い、意欲向上の為表彰を行いました。

利用率に於いては4～7月は前年度より下回っていましたが、8月からは順調に前年度より上回っていきました。しかし冬場の老健入所の延長、SS利用の増加、そして特に骨折入院が今冬は多く、日々の体調不良によるキャンセルも含め、年間の目標利用率に達することが出来ませんでした。実利用者数も減少しています。要支援者が年々減少している事もあり、今後要支援者も含めたさらなる新規登録者の獲得に努め、安定した利用者数を確保していきます。

①利用実績

（ア）延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
30年度	35人	257日	7,780人	86.5%	1.3
元年度	35人	259日	8,250人	91.0%	1.3

（イ）介護度別利用状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
30年度	2,932人	1,708人	496人	382人	188人	5,706人
元年度	3,078人	1,862人	797人	194人	133人	6,064人

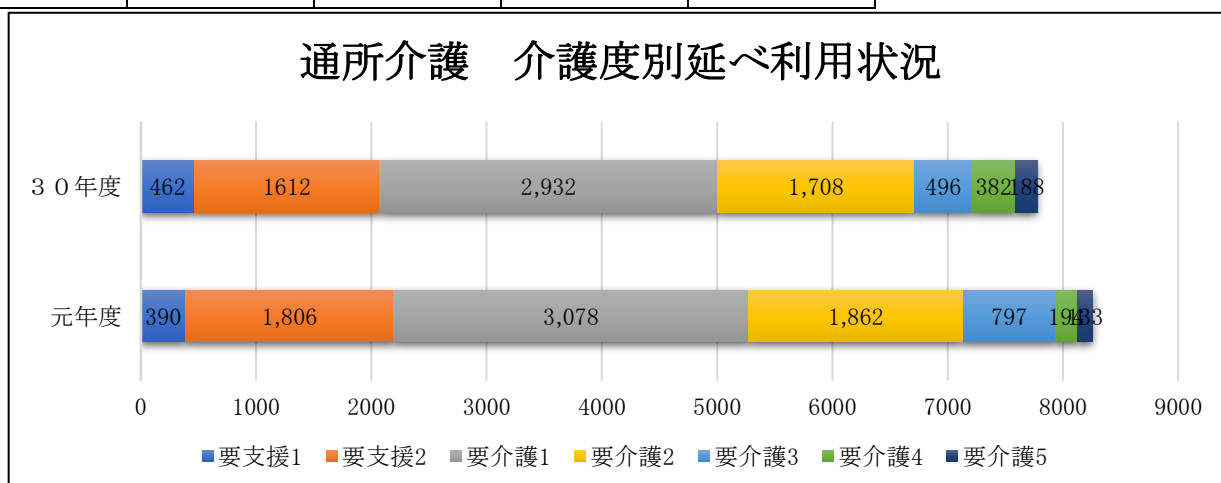
(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	要支援 1	要支援 2
30年度	462 人	1,612 人
元年度	390 人	1,806 人

(エ) 加算の状況

加算項目 年度	個別機能訓練 加算 I	提供体制加算 I 1 (介護)	提供体制加算 I 1 (予防)	提供体制加算 I 2 (予防)	入浴加算	運動器機能向 上加算
30年度	3,096	5,730	--	--	4,115	346
元年度	4,246	6,057	90	204	4,416	294

加算項目 年度	事業所評価加 算	処遇改善加算 I	特定処遇改善 加算 I	送迎減算
30年度	--	832		--
元年度	294	1,171	601	207



8. R e - s t y l e 【サテライト】

今年度は社会参加や地域との関りを意識した活動を中心に展開しました。特に峰山へのお出掛けボウリングや市役所主催の市民スポーツデーへの参加などは、これまでにない取り組みで、ご利用者が地域へ出かけられる喜びと社会への参加が出来る自信を得られたことは、職員にとっても大きな自信に繋がりました。

令和元年度は延べ利用者数、稼働率ともに年間を通して前年度よりほぼ上回り、安定した利用者数の確保が出来ました。これは例年比較的稼働率が下がる夏季にお休みが少なく、安定した稼働率の確保が出来た事が大きく影響しました。ただ、年明けの1月～3月までの冬季に体調不良者が相次ぎ利用中止になる方も数名出ました。この期間に稼働率や延べ利用者数が大きく落ち込んでいたので、特にこの時期のご利用者への細かな配慮やコミュニケーションを取ることで体調把握や変化への気づきを早く行い、体調管理及び安定した利用者確保に努めます。

開設以来、これまでのデイサービスにはとらわれない柔軟な活動を展開していきましたが、独立する今後でもご利用者の声や想いを大切に、楽しみながら目的意識をもつ

て出来る活動を行い、ご利用者の自信や日々の生活の喜びにつながるサービスの提供を行います。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
30年度	AM・PM 15/15	257 日	4,650 人	60.3%	要支援 2
元年度	AM・PM 15/15	259 日	4,792 人	61.7%	要支援 2

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
30年度	674 人	340 人	81 人	0 人	0 人	1,095 人
元年度	925 人	326 人	54 人	4 人	0 人	1,309 人

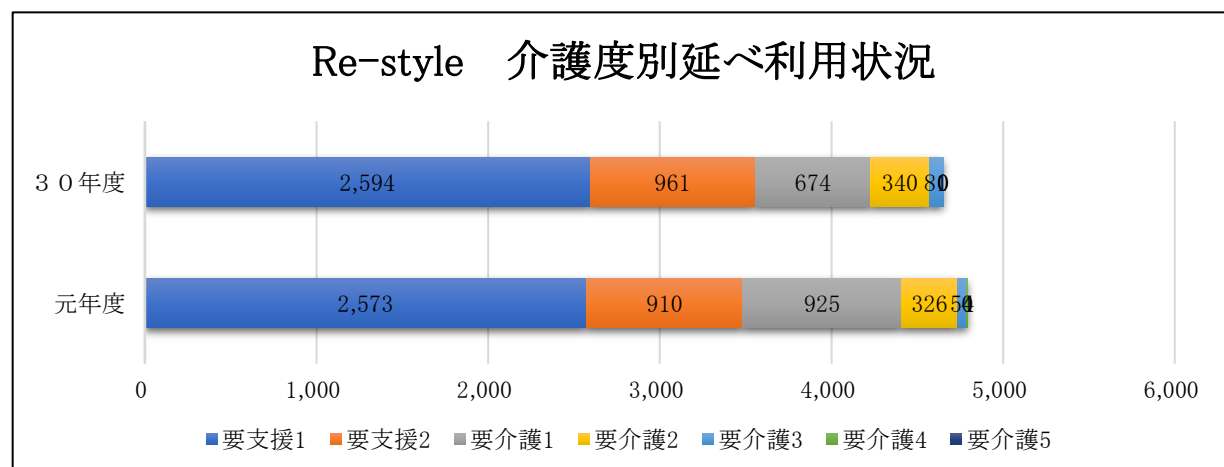
(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	要支援 1	要支援 2
30年度	2,594 人	961 人
元年度	2,573 人	910 人

(エ) 加算の状況

加算項目 年度	個別機能訓練 加算Ⅱ	提供体制 加算Ⅰ（介護）	提供体制 加算Ⅰ 1（予防）	提供体制 加算Ⅰ 2（予防）	運動器機能向上 加算
30年度	1,095	1,101	--	--	891
元年度	1,283	1,320	675	217	892

加算項目 年度	処遇改善 加算Ⅰ	特定処遇改善 加算Ⅰ	事業評価加算	送迎減算
30年度	1,182		--	--
元年度	1,230	611	892	52



9. はまなす苑通所介護事業所

今年度利用中止の方が19名ありましたが、そのうちの10名が前半の3ヶ月に集中しました。要介護3以上の方が特養入所や他府県のご家族の元へ移転されたことが理由で、その後も近隣の特養施設が受入を再開すると同時に入所が決まり、最終19件の中止となりました。

新規は17件の契約を行いました。前半の稼働率低下を補う事は出来ませんでした。

また前年度までは人員不足により計画はしていても規模の縮小や実行に移せない企画や委員会にも出席できない状態でした。しかし、4月より職員が充実し、外出などの回数を増やせたり、なによりご利用者の思いを叶える企画を実行出来た事で職員にも自信と充実感が芽生え、さらなる企画へと意欲を発揮する事が出来ました。

今後も職員の増減は避けられない状況ではありますが、今年度個々が得たスキルを十分に発揮し来年度も引き続きグレードアップしたサービスの提供に努めます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
30年度	20人	257日	4,417人	85.9%	2.0
元年度	20人	259日	4,467人	86.2%	2.0

(イ) 介護度別利用状況

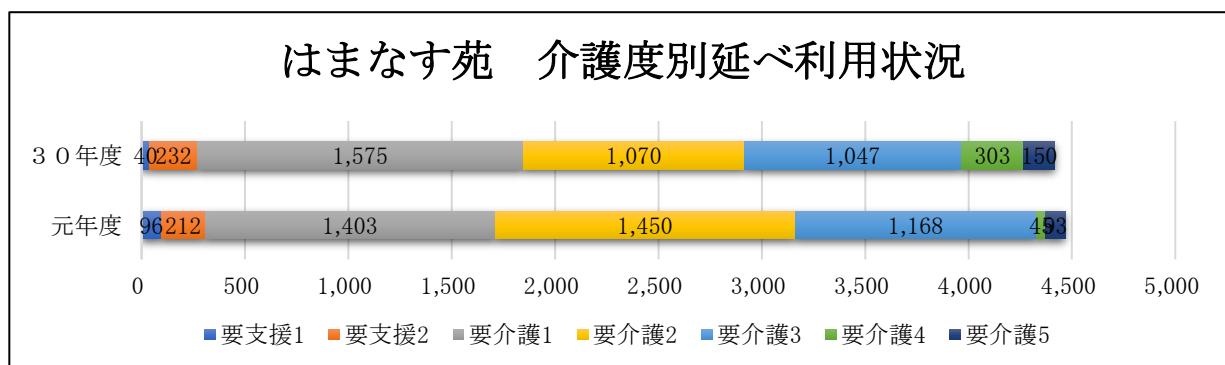
介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
30年度	1,575人	1,070人	1,047人	303人	150人	4,145人
元年度	1,403人	1,450人	1,168人	45人	93人	4,159人

(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	要支援1	要支援2
30年度	40人	232人
元年度	96人	212人

(エ) 加算の状況

加算項目 年度	入浴介助加算	認知症加算	送迎減算	サービス提供 体制加算Ⅰ	処遇改善 加算Ⅰ	特別処遇改善 加算Ⅰ
30年度	4,073	1,400	38	4,158	516	
元年度	4,091	1,415	46	4,159	495	251



10. 事務

【配食サービス】

年度 \ 項目	介護配食
30年度	1,134 食
元年度	1,021 食

【持ち帰り弁当】

年度 \ 項目	持ち帰り弁当
30年度	2,955 食
元年度	2,225 食

【おむつ等販売】

年度 \ 項目	販売数 (パック)
30年度	1,053 個
元年度	1,102 個

【職員研修参加状況】

①施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
排泄ケア・褥瘡予防委員会	28 人	排泄ケア変更の際のポイント レベルアップするには・・・
感染症予防委員会	45 人	手洗い方法とタイミング/プロフェッショナル手洗い
事故防止・拘束廃止委員会	45 人	窒息・誤嚥防止
看取り委員会	28 人	看取り導入～偲びのカンファレンスまでの記録の取り方について
感染症予防委員会	38 人	吐物処理方法の動画観賞と実践
安全衛生委員会	27 人	健康診断・ストレスチェック結果より産業医からのアドバイス
拘事故防止・拘束廃止委員会	47 人	①明日から実践！姿勢ケア②スピーチロック・フィジカルロック・ドラッグロック

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
虐待予防セミナー	1	虐待予防「スピーチロック」
感染症予防対策研修	2	感染症の基礎知識
老人福祉施設看護・介護職員等研修	1	認知症と身体拘束の対応について
宮津市虐待防止研修	2	虐待予防啓発
福祉業界セミナー	2	福祉施設魅力発信
ユマニチュード入門研修	2	認知症に対する対応方法（ユマニチュード）
精神・発達障害者仕事力向上養成講座	1	精神・発達障害者就労支援について
介護サービス情報の公表必須項目研修	2	倫理、法令順守等研修
認知症介護実践リーダー研修	1	認知症実践リーダーとしての研修
特定給食施設従事者講習会	1	これからの給食施設における食事について
福祉職場インタラップ	2	福祉施設魅力発信
感染症予防対策研修	1	感染症の発展編
安全運転管理者法定講習	1	運転業務管理者講習
宮津市虐待防止フォローアップ研修	2	虐待予防啓発フォローアップ
京都府介護支援専門員更新研修	1	介護支援専門員更新研修
宮津市企業人権教育推進協議会研修	2	職場ハラスメント相談対応
丹後管内管理栄養士研究会	1	カラダの健康、感染症対策
市長との意見交換会	1	ふれあい座談会

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名
6月	栗田中学校 2年生
9月	栗田中学校 1年生
9月	栗田中学校 2年生

【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
あめんぼ	紙芝居・朗読・エプロンシアター等	6回	119人
玉穂会	民謡	8回	430人
しおさい	歌唱	1回	28人
榊本	体操教室	2回	35人
オールディーズ	懐メロ・童謡・ハーモニカ・ギター演奏	1回	58人
佐々木弘氏	講演	1回	23人
カレント	弾き語り Duo	1回	68人
宮津高等学校吹奏楽部	クリスマスコンサート	1回	71人

【各種会議開催状況】

会 議 名	開催回数／年
感染症予防委員会	1 5 回
認知症ケア委員会	1 2 回
排泄ケア・褥瘡予防委員会	4 回
事故防止・拘束廃止委員会	1 2 回
看取り委員会	1 2 回
安全衛生委員会	1 2 回
業務運営会議	1 2 回
入所判定会議	1 4 回
長期会議	1 2 回
S S 会議	1 2 回
デイ会議	1 2 回
居宅調整委員会	1 2 回
医務会議	1 2 回
調理会議	1 2 回
給食会議	6 回

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9 月 11 日	106 人	年 1 回
腰痛健診	9 月 11 日・2 月 12 日	95 人・84 人	半年に 1 回
深夜業務従事者健診	2 月 12 日	37 人	年 1 回
ストレスチェック	9 月 11 日	88 人	年 1 回

介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑

事業報告書

【事業統括】

令和元年度は、4月にノロウイルスの施設内集団感染があり保健所の指導を受け、感染症対策に全職員で取り組みました、感染症治療や対策のため経費が増加、さらに面会制限や入所の一時中止等により、前年に比較し厳しい施設運営となりました。老健なぎさ苑では地域の高齢者福祉施設の整備や充足状況、地域で介護サービスを展開している事業所の運営状況と整備計画を踏まえ、以下の5項目を事業計画に掲げて重点的に取り組みました。

1. 在宅復帰・超強化型の算定、その他の加算獲得と維持

平成30年度から施行された介護報酬改定で、老健の在宅復帰・在宅生活維持支援の役割が明確となり全国の老健は5段階に類型化されました。なぎさ苑は、従前から在宅復帰と在宅支援に積極的に取り組んでおり、**新設された超強化型加算の算定と維持を目標とし平成30年6月から超強化型加算を開始、以後途切れることなく令和元年度1年を通して超強化型加算を算定することができました。**

また、在宅復帰・在宅生活支援のため、多様な在宅系サービスを切れ目なく提供できるよう連携体制を強化充実させてきました。具体的には、多職種協働による退所前カンファレンス、通所リハカンファ、入所前後訪問、退所前後訪問などを行い、ご家族も参加して情報交換、情報の共有化を図り、老健を退所された後、通所リハ、訪問リハ、短期入所等を効果的に利用していただくことにより、在宅生活が長く続けられるよう他事業所とも協力して居宅介護支援の連携体制を作り実践してきました。

さらに、リハビリ関連の加算に加え、**認知症専門ケア加算、褥瘡マネジメント加算、排泄支援加算、経口維持加算、口腔衛生加算、療養食加算などの多職種協働による専門性の高い加算の取得に努め、質の高い介護と医療を提供するように努めてきました。**

2. 居宅介護支援センターの整備、各専門職の確保と人材育成、研修活動

「入院から在宅への流れ」に対応し、令和元年度から居宅介護支援センターはケアマネ5名を6名体制に拡充しました。これにより、在宅生活においても訪問リハビリや居宅介護の機会を提供し、必要に応じて短期入所の利用を進めてきました。また、調理員の増員によりこれまで十分に組み合わせていなかった嚥下食（やわらか食、ソフト食）の開発と栄養マネジメント委員会や検食、さらに職員研修会等を通して嚥下食の改善・定着や療養食加算の取得に努めるとともに、天橋園のデイサービスやハウゼへの昼食の提供を継続しています。

通所リハではドライバーをパートで採用、介護職員の負担軽減を図りました。リハビリではセラピストを新規に採用して増員、短期集中リハや認知症短期集中リハ等の加算取得に努め、訪問リハや介護予防総合支援事業などの新規事業につなげました。

令和元年度は、セラピストに加え、（パート）介護職員や看護職員を新規採用、定年後

再雇用などで人員を確保することができました。また、**施設内職員研修会を月一回以上開催し、リスク、虐待防止、感染対策の重要項目に加え、医療、看護、食事形態等について研修を企画**するとともに、部署ごとに OJT (On-the-Job Training) プログラムを作成して項目ごとに実践検証を行い、介護、医療の質的向上、人材育成に努めてきました。

3. ナースコールシステムの更新の運用

平成 30 年度補正予算で承認いただいたナースコールシステムの更新事業は年度をまたいだ令和 2 年 8 月に更新工事を完了しました。5 月に着工、7 月末までに**ナースコールと PHS、監視カメラ、LAN ケーブルを更新、利用者の居室とベッドマップを大型モニターに表示、さらに更新した固定電話機に PHS を連動させて電話転送を可能としました**。8 月にはナースコールと介護記録システム（ちょうじゅ）と連動させナースコールとその対応が「ちょうじゅ」に自動的に記録されるようになりました。また、固定電話は光電話に変更、本部との内線化を進めることができ通信費用の抑制につながりました。また、施設内の**監視カメラシステムの更新によりデジタル保存が可能となり、転倒などのリスク回避に活用できるようになりました**。

4. 空調システム更新を見据えた再生可能エネルギー活用に関わる研修活動

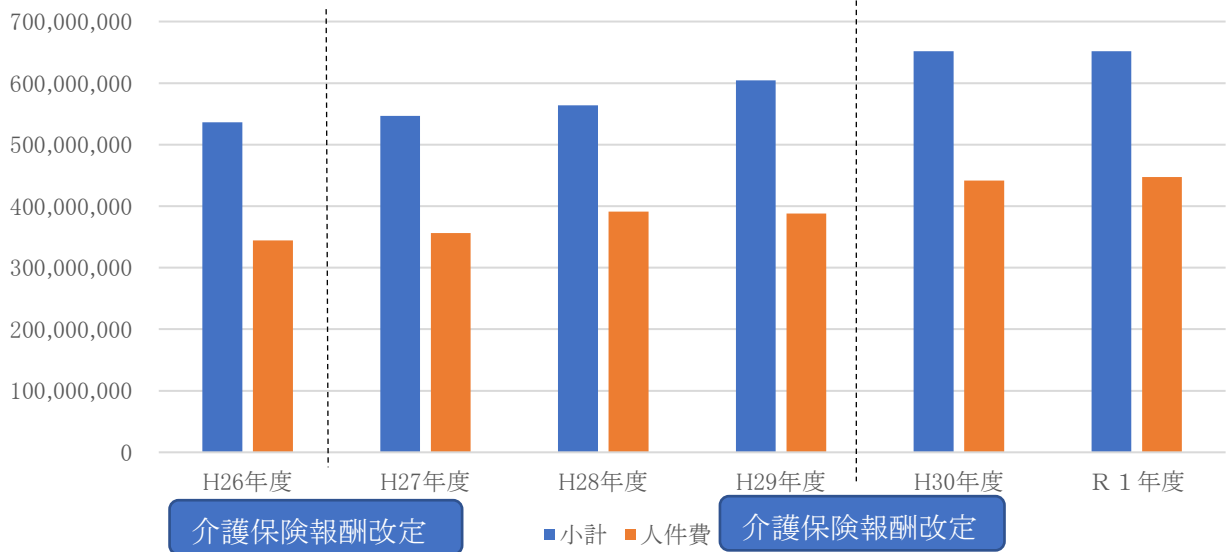
中長期計画で予定していた空調設備の更新事業は、検討の結果、環境省が公募している「先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業」に該当することから、理事会の承認を経て応募した結果、10 月に採択となり空調設備更新事業をオムロンと契約、**1 月末まで空調更新工事を完了、約 9,000 万円の事業費のうち 3,800 万円を補助金で充当、事業費を圧縮することができました**。二酸化炭素排出削減をより効果的にするため**照明設備の LED 化工事**を年度内に実施しました。令和 2 年度は「二酸化炭素排出量大幅削減事業」の検証年度となり、更新済みの空調設備と自主努力で更新した LED 照明を活用し二酸化炭素排出削減と電気料金の削減に努めます。

5. 法人本部と連携した事務業務分掌の見直しと職員の補充と再配置

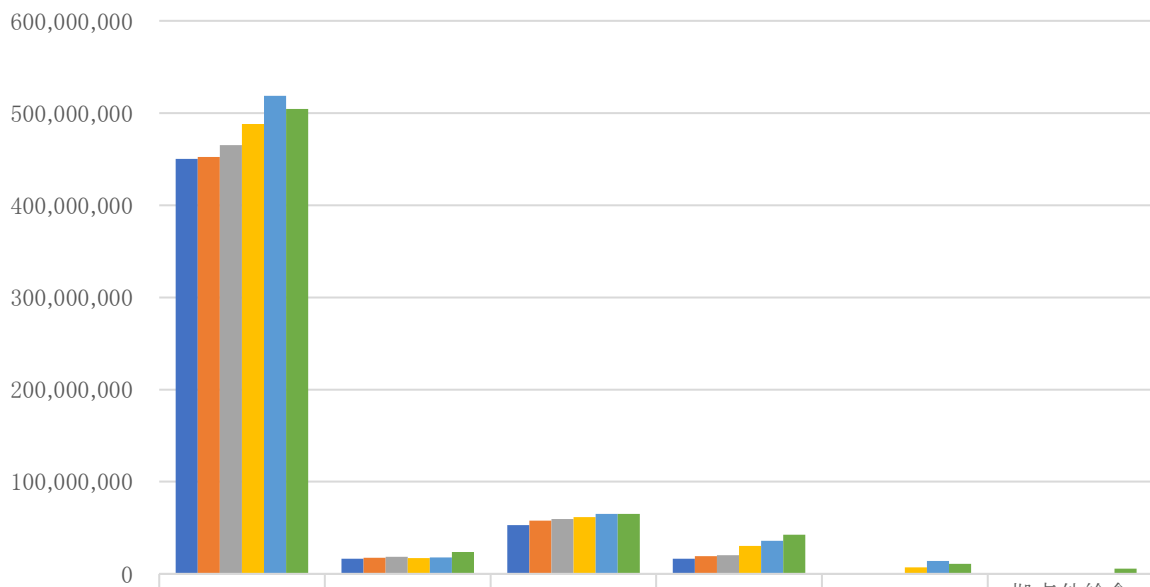
法人本部の機能強化と集中化によりなぎさ苑においても事務職の 3 名の事務職の分掌の見直しを行った上で**7 月より事務主任を事務長に昇任**、そのリーダーシップの下、ナースコールシステムの更新、空調システムの更新、照明の LED 化を年度内に実現できました。ウインドウズ 7 サポート終了に伴い、なぎさ苑の端末 22 台の端末更新と 6 台のプログラム更新が必要となりましたが、消費税の増税前に事業を完了できました。

また、情報ネットワーク委員会を設置し、必要な職員は個人のメールアドレスを持って職員間の情報連絡環境を改善するとともに、サイボウズを導入して会議室や公用車の使用を各部署から直接予約できるようになり、施設長のスケジュールも職員に情報共有（みえる化）しました。また、感染対策の啓蒙、職員研修会やケアカンファレンスの予定等を大型モニターに常に表示し、情報共有に活用しています。

介護保険事業収支の推移 (H26年度～令和元年度)



事業別収入の推移 (H26年度～令和元年度)



	入所	短期	通所	居宅	訪問リハ	拠点外給食費
平成26年度	450,283,355	16,630,498	52,959,102	16,557,560		
平成27年度	452,498,217	17,471,806	57,655,530	19,258,750		
平成28年度	465,276,870	18,690,350	59,655,490	20,141,450		
平成29年度	488,109,136	17,264,058	61,758,076	30,292,200	6,934,480	
平成30年度	518,734,195	18,026,410	65,098,022	35,916,040	13,913,340	
令和元年度	504,346,042	23,741,891	64,974,155	42,488,856	10,747,580	5,678,660

【部署別事業報告】

(1) 支援相談室

平成30年6月から算定を開始した「超強化型加算」の算定を令和元年度も継続することが出来ました。

支援相談室が中心となり算定要件である「在宅復帰率」「回転率」「入退所前後訪問数」に加えて「入所稼働率」を小まめに把握し、毎月の業務運営会議などを通して各部署主任を中心に情報共有を行いました。しかしながら、令和元年度は在宅復帰後や入院/死亡後の空床やノロウイルス感染症の集団感染のために入所を一時中止したこと等が影響し、入所稼働率が1.9%低下しました。また、前年度と比較し、要介護4、5の介護度の高い入所者が減少する一方で、要介護2、3の入所者が増加する傾向がみられました。

令和元年度より看護・介護主任会議に相談室主任も出席し、各部署と密に連携が図れるよう、情報の共有、意見交換、協力体制のさらなる強化に努め、ご利用者のスムーズな入退所等、在宅生活、在宅復帰に繋げました。

支援相談員、施設ケアマネジャーとしての資質の向上、情報収集については支援相談員部会、施設ケアマネジャー部会の各ブロック交流会へ積極的に参加し、支援相談室内での伝達、情報共有を行いました。転倒リスクWGにおいて検討し、ご家族に理解と協力をえられるよう入所時リスク説明書の見直しを行いました。

地域貢献活動にも取り組み、毎月第2水曜日に「須津なぎさカフェ」を吉津公民館で開催し、2月には健康講座と題して「認知症サポーター養成講座」を行いました。

吉津小学校との交流も継続して行い、「施設見学（7月）」「認知症サポーター養成講座の開催（7月）」「KYO発見・仕事・文化体験活動（10月）」「児童との交流会（12月）」を行いました。

年度内にナースコールシステムが更新されたことに伴い、相談員もPHSをもつことができ、また、フロアや事務室に設置された大型モニターを介して、スタッフ間の情報共有に役立てることができるようになりました。

◎ 入所 療養介護状況

	入所稼働率 含短期入所	在宅復帰率	ベッド 回転率	重度化割合 要介護 4+5	入所前後 訪問指導	退所前後 訪問指導
H30 年度	97.6%	69.1%	16.5%	41.5%	43.8%	59.7%
R 元年度	95.7%	62.0%	16.3%	32.5%	48.6%	44.5%

退所者状況

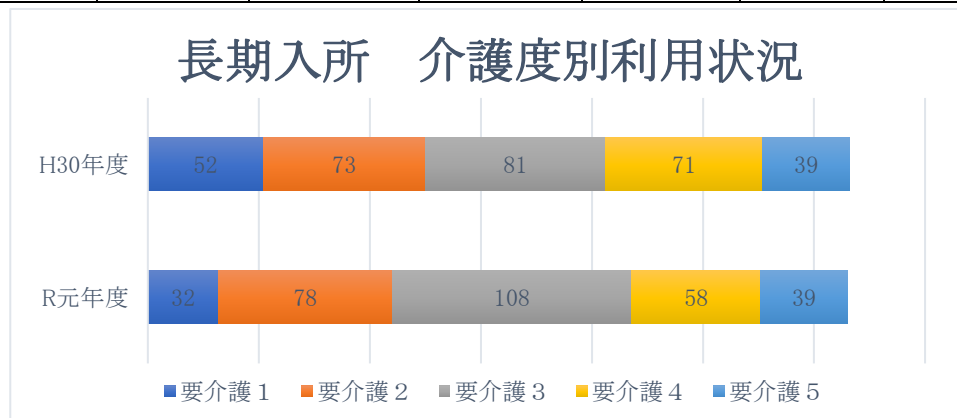
退所後 年度 区分	在宅	在宅系施設	介護老人 福祉施設	他の老健	入院	死亡	その他	合 計
H30 年度人数	112	7	24	1	25	8	4	181
R 元年度人数	104	7	28	2	32	16	4	193

年齢・性別 入所者数

	65 歳 未 満	65～69	70～79	80～89	90～99	100 以上	合計
H30 年度	3	3	20	132	115	8	281
R 元年度	6	3	25	133	98	16	281

介護度別 入所者数・平均介護度

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均介護度
H30 年度	52	73	81	71	39	311	3.1
R 元年度	32	78	108	58	39	315	3.0

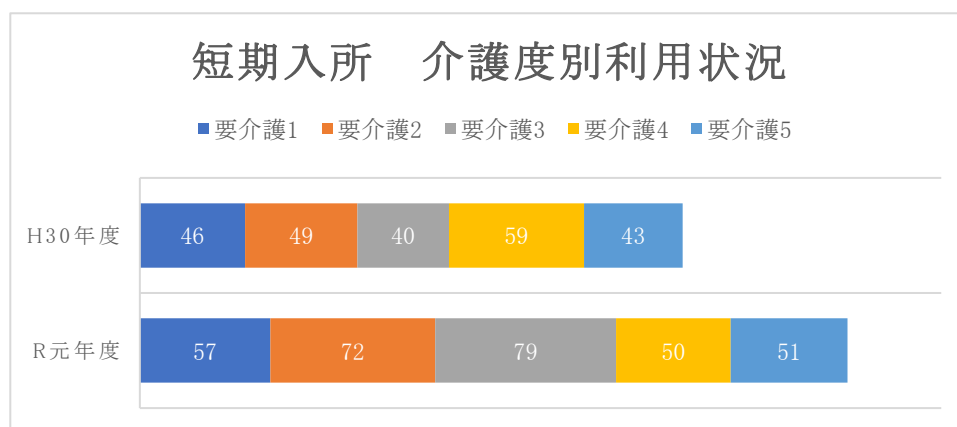


地区別入所者数

	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
H30 年度	149	105	7	20	281
R 元年度	154	97	12	18	281

◎短期入所 療養介護状況 介護度別 入所状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均 介護度
H30 年度	46	49	40	59	43	237	3.0
R 元年度	57	72	79	50	51	309	2.9



要支援 入所状況

年度 \ 介護度 性別	要支援 1	要支援 2	合 計
R 元年度	0	1	1

地区別 入所状況

年度 \ 地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
H30 年度	181	56	0	2
R 元年度	255	54	1	0

新規契約者

	新規入所者
H30 年度	26
R 元年度	28

(2) 介護部門

(一般療養棟)

令和元年度 2 階介護士は、日常の業務の中で暮らしを支える専門職として、利用者一人一人の情報を多職種で共有し、ケアカンファレンスや日常のケアの中でその時々
の最善のケアを提供出来るよう努力しました。中でもナースコールシステムの更新に
よりフロア全体の雰囲気も変わり、利用者の訴えに対して機敏に対応するという意識
付けが出来ました。

とりわけ**入所者の高齢化が顕著になり、百歳をこえる超高齢者が増加、認知症を抱える高齢者への対応が一般療養棟でも必要となっています。認知症専門ケア加算の算定にあたり、認知症リーダー研修に中堅介護福祉士を中心に参加して研修してもらい、認知症ケアについて研修参加者の学びをフロア全体にフィードバックすることで、職員のスキルアップを図りました。**看取りケアについては、昨年同様環境づくりや振り返りカンファレンスに加えて、多職種での外出を実現させる機会があり、利用者・ご家族の思いに寄り添えることが出来ました。

今年度は接遇に力を入れ、特に言葉遣い、敬意をもった言葉を使うことについてフロア全体で取り組みましたが、来年度も継続していきたいと考えています。

(認知症専門棟)

平成 31 年度は 4 月 20 日から 5 月 3 日に認知症専門棟でのノロウイルスの集団感染が起こり、利用者 25 名（うち 8 名陽性）、職員 6 名が感染し、その期間内に S S 利用のご利用者 1 名が退苑後亡くなられ、2 名が入院、感染症の怖さやウイルスを持ち込まない、手洗い、消毒の徹底等感染症対策の普段からの徹底の重篤さを実感しました。12 名のご利用者をお見送りしましたが、その都度振り返りを行って生命の大切さを実感しながらケアに従事してきました。

現場においては、副主任が年度途中で退職しましたが、ユニットリーダーを中心に、各ユニットの課題、目標の具体化を行い、認知症高齢者やそのご家族が安心、安全、安楽に生活を送っていただけるよう努めてきました。また、環境についてもナースコールシステムや P H S、照明の L E D 化、大型モニターや監視カメラの設置に伴い、リスク管理、職員連携についてもスムーズにできるようになってきています。**特にリスクマネジメントについては、リスク委員会を中心に、センサーの実施基準見直しや、**

ワンダーマットやヒッププロテクターの購入、そして、家族へのリスクに対する理解をしていただく事に対し、転倒WGで対応策を検討しました。

(3) 看護部門

肺炎など点滴加療を必要とする疾患について、可能な限り施設内で実施し、入院を回避することで療養生活が継続できるよう努めました。今年度は肺炎 16 件、尿路感染 19 件の治療を施設内で行いました（所定療養施設疾患費）、脳血管障害の発症は 4 件あり、異常の早期、医師への報告、救急搬送と迅速な対応に努めました。

施設内の OJT（On-the-Job Training）として夜間時の救急対応、吐物処理訓練について研修会を開催しました。また看護職員個々のフィジカルアセスメント能力の向上を目指し、Off-JT プログラムとして、10 名の看護職員を京都府看護協会主催の実践能力講習に派遣しました。受講後は伝達講習会を開催し、学びを共有できる仕組みを整えました。看取りについては全老健の看取り研修に看護職員を派遣し、新しい知見について伝達研修を行い共有しました。

4 月 20 日に認知症専門棟においてノロウイルスの集団感染が発生し、利用者 25 名、職員 6 名が発症し 5 月 3 日に終息しました。**事例の振り返りを行い、改善策として①感染対策マニュアルの周知徹底、②初期対応のルール化、③職員教育の強化 ④環境消毒の応援体制の整備 ⑤家族へ連絡を確実にを行う方法の構築 ⑥隔離用具の整備を行いました。6 月 25 日に施設内で振り返り研修を開催、10 月には丹後保健所主催の「高齢者・障害者等入所施設感染予防対策研修会」において報告を行いました。**

インフルエンザ対策としては全職員のワクチン接種の実施、本人は元より症状のある家族との濃厚接触時には一定期間の自宅待機等の措置を講じ、インフルエンザの発症なく流行を終えました。

新型コロナウイルス対策については既存の感染対策マニュアルの更新、消毒方法の見直しを行い、近隣の感染状況の段階に合わせた対応を行っています。

転倒による骨折への対策については 4 月に転倒対策WGを立ち上げ、家族との情報共有を強化すべく、転倒アセスメントリストの整備を行いました。令和 2 年 4 月より運用を開始します。また、転倒時の衝撃緩和策としてワンダーマットやヒッププロテクターの整備も行いました。本年度の施設内で発生した骨折は 8 件でした。

看取りについては看取り初期の段階で家族との IC 開催による病状説明の実施、必要に応じた他科受診を行い病状の理解・受容が深まるようご家族への支援に努めました。看取られたご家族からお手紙を頂戴するなど職員のモチベーション向上に繋がった年でもありました。

褥瘡マネジメント加算、排泄支援加算の算定状況

褥瘡マネジメント加算	排泄支援加算
平成 30 年度 160 件	平成 30 年度 295 件
令和元年度 203 件	令和元年度 404 件

本年度の看取り件数

施設内死亡件数	看取り対応件数
平成 30 年度 8 件	平成 30 年度 6 件
令和元年度 16 件	令和元年度 12 件

(4) 通所リハビリテーション

平成 30 年度介護報酬改定において取得可能な加算を積極的に算定する為、介護予防に新設のリハマネ加算を導入するとともに、口腔機能向上加算希望者には選択的サービス複数実施加算Ⅰとして算定しました。

要介護者ではリハビリ職員を 1 名配置、リハビリ提供体制加算 4、リハマネ加算Ⅲ、認知症短期集中リハ加算を算定、リハビリ会議の準備・進行、通りハ計画書の作成等、安定した加算取得が継続出来ました。また、歯科衛生士による継続した介入により口腔機能向上加算希望者も増やす事ができました。近年はリハビリのできるデイとして男性利用者が増え、現在では全利用者の半数以上が男性利用者となりました。

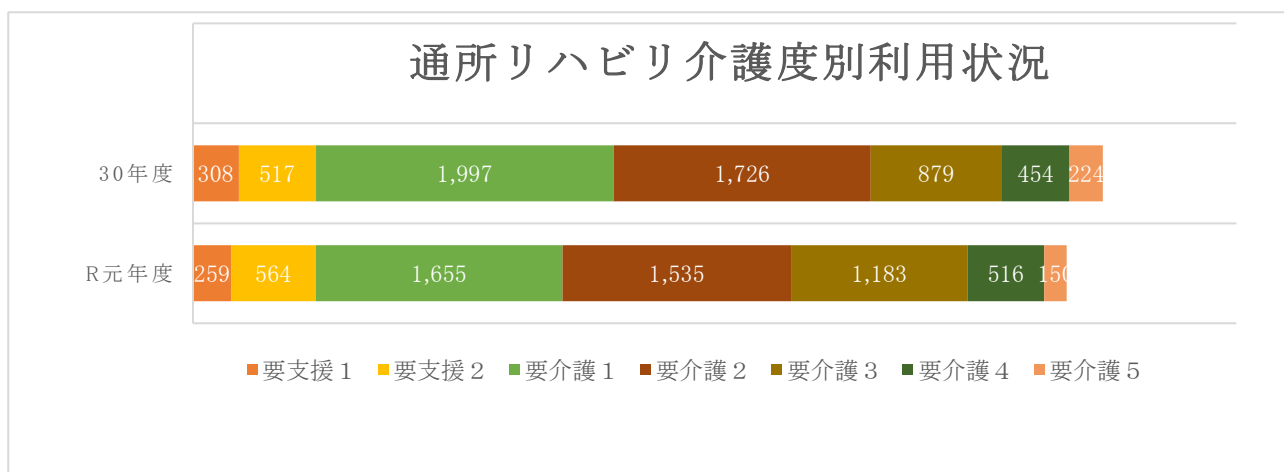
ご利用者が安心して在宅生活が送れるように、送迎時や利用中の様子を居宅支援事業所や他サービス事業所等に報告し、各関係機関と情報の共有を図り、密に連携を取り合えるような関係づくりに努めました。

延べ並びに平均利用者数・利用率：(要支援も含む)

	利用定員 /日	営業 日数	延利用者数	平均利用者数 /日	利用率
30 年度	27 人	257 日	6,045 人	23.5 人	87.1%
R 元年度	27 人	259 日	5,869 人	22.1 人	83.5%

介護度別利用状況・平均要介護度（介護給付事業）

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均 要介護度
30 年度	1,997	1,726	879	454	224	5,280	2.1
R 元年度	1,655	1,535	1,183	516	150	5,039	2.3



介護度別利用状況（介護予防事業）

	要支援 1	要支援 2	介護予防計
30 年度	308	517	825
R 元年度	259	564	823

認知症短期集中個別リハ加算

(240 単位)	延人数
30 年度	65
R 元年度	127

リハビリマネジメント加算（Ⅰ・Ⅲ）

（要介護・支援含）	延人数
30 年度	1,067
R 元年度	1,053

選択的サービス複数実施加算（介護予防）

(480 単位)	延人数
30 年度	50
R 元年度	93

（５）機能訓練室（リハビリセラピスト＜OT, PT, ST＞）

令和元年度は、超強化型維持のため入所利用者様全員に週 3 回以上の個別リハビリを行いました。なぎさ倶楽部へのセラピストの配置やセラピスト退職や産休により、セラピスト一人当たりの担当者負担増がありましたが、短期集中個別リハビリや認知症短期集中リハビリテーション加算の算定も可能な限り行い、在宅復帰に向けた個別リハビリが提供できるよう努めました。

また、加算算定により利用者様に提供できるリハビリ時間が長くなり、信頼関係の構築や在宅復帰を目指した基本動作練習、生きがい作りを目的とした園芸療法など質の高いリハビリが提供できたと考えます。

なぎさクラブについては、法人本部の事業報告を参照ください。

入所部門

	短 期 集 中 (240 単位)	認知症短期 集中 (240 単位)	短期入所 個別(240 単位)	経 口 維 持 Ⅰ (100 単位)	経口維持Ⅱ (400 単位)	個別リハ (0 単位)
H30 年度	6,441	4,027	409	305	305	10,125
R 元年度	5,692	3,466	557	265	265	10,194

通所部門

	リハマネ加算Ⅰ (330 単位)	リハマネ加算 Ⅲ (800 単位)	短 期 集 中 (110 単位)	認知症短期集中 (240 単位)	運動器機能向 上加算 (225 単 位)	リハビリ提 供体制加算 (24 単位)
H30 年度	1,067	12	133	60	177	3,793
R 元年度	1,041	12	0	127	165	3,992

（６）訪問リハビリ

令和元年度は、リハビリ職員の年度中途退職に伴い 7 月より訪問リハビリ担当者が 1 名となり、新規利用者にはお待ちいただくなくてはならない状況となりました。今後も訪問リハビリ利用希望者の増加が見込まれ、リハビリスタッフを柔軟に配置するなどし、地域の要望に応えられるよう努めます。

年度	実施単位数合計 (290 単位)	リハマネ加算合計 (230 単位)	短期集中リハ加算合計 (200 単位)
H30 年度	4,445	329	147
R 元年度	3,469	252	21

(7) 給食部門

利用者の状態に合わせた食事形態、療養食（糖尿病食、塩分制限）、看取り期の利用者に寄り添った食事、栄養提供に取り組みました。嚥下困難者に対応した食事形態（やわらか食、ソフト食、ミキサー食）の安定した提供に努め、多職種へ向けた勉強会も実施しました。定期的に栄養マネジメント委員会や食事観察会議に参加して摂取状況を把握、フロアのケアカンファにも出席して栄養面の提案をしてきました。また、利用者様に合わせた個別対応、看取りなど、多職種と連携し体調によつての食事の提供にも協力しました。

令和元年度は、新任職員を受け入れ今まで以上に食の充実を図るために取り組みました。食形態充実やわらか食の対応、天橋園（デイサービス、ハウゼ）へ食事提供の継続などの取り組みに対応するため、管理栄養士や調理員の連携により作業面の改善を図りました。

(8) 医務室（診察室、薬局、医師、歯科衛生士、薬剤師、看護師）

医師の指導の下、看護師、歯科衛生士、薬剤師が中心となって、医薬品や検査キット、医療器材等の整備を通して、診察室と薬局の管理と整備に取り組みました。

医師と薬剤師は、同種同効薬の見直し、ジェネリック医薬品の採用を含め在庫医薬品の見直しを行い、医薬品費のコストダウンを行ってきました。また、入所者に多くみられる多剤処方（重複処方やポリファーマシー）を見直し、減薬に努めてきました。

入所時リスク説明書、病状説明書、看取り同意書＜人生の最終段階における医療・介護にかかわる同意書＞などを準備、活用することで、家族への説明と同意（Informed Consent: IC）を多職種協働で行うように対応し、利用者のファイルのトップに入れることで、急変時や看取りケアの徹底に活用してきました。

インフルエンザへの対策として、入所者や通所利用者へのインフルエンザワクチン接種を実施するとともに、職員には無料でワクチン接種するばかりでなく、家族がインフルエンザに罹患した場合にも潜伏期間、職員に自宅待機を命ずるなど対策を強化してきました。しかしながら、平成 30 年度末には入所者にインフルエンザ発症が広がり、ノロウイルスの集団感染が発生したため、認知症専門棟の隔離を行うことがあったためガイドラインの見直しを行いました。

歯科衛生士は、入所者全員を対象に口腔衛生のチェックを行い、口腔衛生管理体制加算、口腔衛生加算を取得するとともに、通所利用者にも対象を広げ、加算も取得しました。フロアの介護、看護スタッフへの指導を行い、口腔衛生管理に取り組み、加算を取得しています。

年度	口腔衛生管理体制加算	口腔衛生管理加算	所定疾患施設療養費	緊急時治療加算
H30 年度	1, 290	1, 111	84	0
R 元年度	1, 258	1, 064	247	4

(9) 事務室（施設管理部門）

令和元年度はナースコール等情報ネットワークシステムの更新、監視カメラ更新、LAN ケーブル更新、大型モニター導入、固定電話更新等を行いました。8 月にはナースコールと介護記録システム（ちょうじゅ）との連動を開始、固定電話更新により光電話になり、本部との内線化を進めることができ通信費用の抑制につながりました。

また令和元年度はなぎさ苑の中長期計画で検討しておりました空調設備更新事業を完了するまで実施することができました。令和 2 年度は「先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業」の検証年度となり、更新済みの空調設備と自主努力で更新した LED 照明の活用により二酸化炭素排出削減に努めてまいります。

ウィンドウズ 7 サポート終了に伴い 22 台端末更新と 6 台のプログラム更新が必要となり消費税増税前に事業を完了しました。

平成 27 年度以後、介護保険事業収入は増加しましたが、増収額の多くは入所（長期）に依存しており、入所以外の活動も老健の入所区分における増収に結び付けることなしには、経営基盤の強化になりません。従って、すべての職種が共同して老健の役割である在宅復帰と在宅生活支援に資源を集中させる必要があります。介護事業の推進には、人材の確保と育成が必須であり、人件費は増加傾向にあるが、それを上回る収入増加をえることで、経営基盤の強化を図ってきました。

介護職員特別処遇改善加算については、年度末に当該職員に支給され、人件費率の上昇の一因となっている。今後の対応については、本部で十分に検討されている。また、介護、看護職員の一部が高齢化しており、60 歳定年や再雇用、定年の延長などの検討が必要である。中途採用の前歴換算を見直し待遇改善を行ったことが職員確保につながっている。管理栄養士の確保、育成医にも取り組んでいるが、直ちに充足される見通しがたっていない。

(10) 居宅介護支援事業所

高齢者が地域の中で自分らしく日常生活を営むことができるように、相談援助やサービス調整を行いました。

令和元年度も 6 人体制を維持し、余裕を持ちながら利用者本位の適切なケアプラン作成に努めることができました。宮津市（栗田から里波見まで）、与謝野町岩滝地区以外にも担当地区を拡大し、随時新規受け入れを行い件数維持に努めました。

医療連携については、主治医や関係機関との連携を密にし、利用者がスムーズに在宅生活を送る事ができるように支援していきました。また、対応困難事例についても、地域包括支援センターと連携を行いました。

令和元年度についてはターミナルケアマネジメント加算 4 件（必要要件は 5 件）、退院退所加算 76 回となり、令和 2 年度 4 月より特定事業所加算Ⅳの算定が外れることとなりますが、今後も加算の回復にむけて努力を継続したい。

介護支援専門員研究会や地域ケア会議での意見交換や研修に積極的に参加し、多職種と交流する機会を増やすとともに、法人内部での定例会議や事例検討を開催し、ケアマネとしての資質向上に努めました。

次年度も利用者やご家族に対して常に笑顔を大切に、傾聴の姿勢を持ち、住み慣れた地域で、笑顔で過ごして頂けるよう努めていきたいと思ひます。

居宅介護支援についても、利用者を介護度別にみると、前年度と比較し要介護 4 あるいは 5 の介護度の高い方が減少し、要介護 1、2、3 の方が増加傾向にあることがわかります。地域における特養の整備と入居が進んだためと推察されます。

相談件数

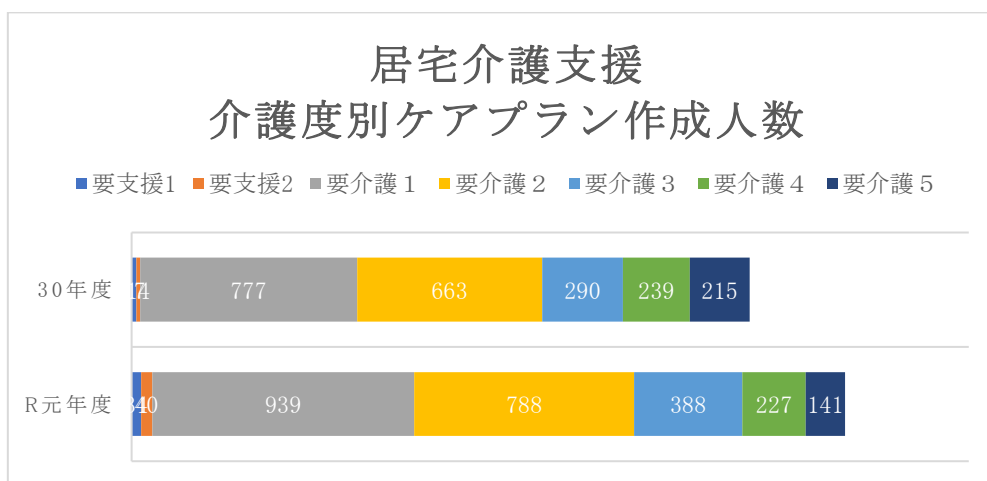
内容 年度		介護保険その他福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待
30 年度	実数	242	3	9
	延数	21,821	28	33
R 元年度	実数	273	11	4
	延数	23480	35	13

ケアプラン作成管理件数

	実件数
30 年度	242
R 元年度	273

介護度別プラン作成延べ人数

年度 \ 介護度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
平成 30 年度	17	14	777	663	290	239	215	2,215
令和元年度	34	40	939	788	388	227	141	2,557



(地域事業・総合事業)

	参加者数
市民健康講座（吉津公民館） 2月12日	17
吉津小学校認知症サポーター養成講座 7月4日	7
認知症サポーター養成講座（なぎさ祭開催） 9月1日	24
須津なぎさカフェ（吉津公民館） 11回（毎月第2水曜開催）	158
なぎさ倶楽部 44回（総合事業）	285
橋立クリーン作戦	9
合 計	500

(ボランティア受け入れ状況)

ボランティア名	活動内容	年間回数	延べ人数
福寿草ほほえみ会	喫茶・清掃等	15	88
野菊会	喫茶・清掃等	17	56
玉穂会	民謡	11	100
しおさい	唱歌等	4	21
榊本様	体操	4	4
吉津小学校3年生	交流(歌・踊り等)	2	14
ライリッシュオカリナガンバルンバ	オカリナ	1	6
	合 計		289

(実習生等受け入れ状況)

月	受入事業所等	実習内容	受入実人数
2月～10月	京都府立看護学校	看護学生施設実習	37
11月	京都府看護協会	eラーニングを活用した訪問看護研修	1
8月	舞鶴YMCA国際福祉専門学校	介護学生施設実習	2
9月	京都府福祉即戦力人材養成科	介護職員初任者研修施設実習	3
8月～9月	暁星高校	ボランティア学習	1
9月	京都ジョグパークインターシップ事業受入(相談スタッフコース)	インターンシップ(職場体験)	1
8月	看護学生ボランティア	ボランティア学習	1
10月	吉津小学校4年生	KYO 発見 仕事・文化体験活動	4
8月	京都府立医科大学付属北部医療センター	平成30年度地域医療教育推進事業(医大GP)	2
	合 計		52

【研修等参加状況】

(施設外研修)

研 修 内 容	参加数	研 修 内 容	参加数
府老協福祉長代表者会議	1	平成31年度介護保険サービス事業者等に係る集団指導	4
京都府老建大会実行委員会	1	丹後地域リハビリテーションセラピスト連絡会	2
京都府老人保健施設大会(実行委員会含む)	4	地域リハビリテーション丹後圏域連絡会	2

全老健2019年度管理者研修	1	甲種防火管理新規講習	1
京都府認知症介護実践者等養成研修(実践者研修)	2	危険物取扱者保安講習	1
京都府認知症介護実践者等養成研修(基礎研修)	5	宮津市高齢者等虐待防止ネットワーク研修会	1
認定産業医研修(9回)	1	医療と介護の連携推進研修会	1
京都府福祉避難サポートリーダー養成研修	2	高齢者入所施設と北部医療センター職員との連携会議	1
京都府認定調査員初任者研修	1	在宅サービス関係者と北部医療センター職員との連携会議	1
全老健 看取り研修会	3	安全運転管理者講習	1
福祉職員のためのマナー研修(中級)	2	介護支援専門員再研修	2
キャリアアップ研修(初任者)	1	ケアプラン点検を学ぶ	1
キャリアアップ研修(中堅職員)	2	キャラバン・メイト養成研修	4
キャリアアップ研修(チームリーダー)	2	介護実習報告会(YMCA)	1
高齢者、障害者等入所施設感染予防対策研修会	1	メンタルヘルス研修	2
感染症予防対策研修会(基礎編)	1	府老協看護、介護第4ブロック交流会	2
感染症予防対策研修会(発展編)発表含む	2	虐待防止と施設事業所職員の心のケアを考える研修	1
なぎさ倶楽部(総合事業)、宮津市との打ち合わせ	2	福祉懇談会(7カ所)	6
丹後地域保健医療協議会	1	働き方改革関連法に関する説明会	2
施設長会議兼宮津市生活支援サービス研究会	1	地域包括ケア会議	8
平成31年度企業内人権啓発推進員、京都府企業内人権問題啓発セミナー及び学卒求人説明会	1	宮津市地域ケア会議(特別)在宅医療、介護連携事業	3
入所等介護施設職員対象虐待防止研修	3	介護相談員派遣事業に係る三者会合の開催	1
特定給食施設従事者等講習会	2	看護、介護職等研修	1
全国高齢者施設看護師会「看とり期の食事を支えるアプローチ」	5	宮津市介護支援専門員研究会	6
丹後ブロック研修「ケアプラン点検を学ぶ」	2	京都府「成年後見制度の活用と本人情報シートの理解を深める研修会」	1
看護・介護ブロック長会議	1	主任介護支援専門員更新研修	1
府老協リハビリテーション部会	1	府老協栄養部部会	1
京都府看護協会「実践能力向上研修」	9	京老協支援部部会	3
施設ケアマネジャー交流会	1	福祉施設、事業所職員と城崎市長との意見交換会	3
第4ブロック看護、介護部会	3	不在者投票事務に関する説明会	1
がん患者・高齢患者の意思決定	1	リハビリテーション三療法士会合同研修講師	1
介護サービス情報の公表必須項目研修	5	京都府リハビリ専門職地域人材養成、派遣支援事業研修会	6
暮らしを支えるための高齢者作業療法	6	HACCPとスチコン調理	1
栄養士等ネットワーク推進研修会	1	丹後就職フェア	1
調理実習セミナー	3	若手職員魅力発信研修	1
参加延人数合計			155

(施設内研修)

月	日	タイトル	参加人数	担当
5月	3回実施	令和元年度の事業計画	91名	施設長
6月	25日(火)	ノロウイルス感染症の振り返り	76名 (外部から14名)	感染対策委員会
7月	25日(木)	夜間帯の救急対応	38名	看護部
8月	26日(月)	不適切ケアについて	36名	身体拘束廃止委員会
10月	1日(火)	気持ちのよい電話対応 言葉使い	外部講師(三幸カレッジ)+44名	リスク 相談室/小谷元
10月	28日(月)	食形態と姿勢	25名	リハ/小川・瀬野
11月	19日(火)	スキンテア/IAD	36名	褥瘡/岡田 排泄
11月	25日(月) 27、3回	手洗い・消毒 嘔吐への対応	75名	感染/菅谷
12月	10日(水)	看護・OFF-JT研修・報告会	15名	看護/岡田
12月	20日(金)	虐待防止研修・報告会	26名	身体拘束廃止
1月	21日(火)	(全老健)看取り研修会・報告会	22名	研修参加者(相談員、NS、CW)
1月	29日(水)	食事形態について	39名	給食/渋谷
2月	21日(金)	転倒予防 頭部外傷と頭蓋内出血	45名	リスク/転倒対策 WG・益田
3月	中止 (コロナ)	年度末活動報告会 (事例検討/2F・3F)	中止	職員研修委員会

(施設内委員会・会議等開催状況)

会 議 名	開催回数
業務運営会議	12
入所検討会議	51
2階・3階ステーション、デイケア	36
看護・介護主任会議	12
ユニット会議・ユニットリーダー会議	96
部署別会議（毎月月末までに）	12
感染症予防委員会（臨時会議含む）	17
褥瘡予防委員会	12
身体拘束廃止、虐待防止委員会	12
リスクマネジメント委員会	12
職員研修委員会	12
サービス向上委員会	12
情報ネットワーク委員会	11
栄養マネジメント委員会	12
衛生委員会	12
認知症ケア委員会	12
合同排せつ委員会	9
なぎさ苑まつり実行委員会	8
北星会施設長会議	26
北星会事務会議（4月、7月）	2
北星会相談員合同会議（7月、1月）	2
北星会栄養・調理部門合同連絡会議（4月、6月）	2
北星会看護主任会議（5月、9月、1月）	3
北星会居宅支援合同会議（6月、11月、11月）	3
北星会通所合同会議（5月、11月）	2
北星会在宅サービス事業所合同会議（9月）	1
オムロン工事定例会議	14
リクルートチーム会議（4月、6月）	2
北星会苦情解決委員会（11月）	1
合 計	418

施設・事業所別 職員数一覧																
令和2年3月31日現在																
事業名		北星会 法人本部														
			事務局長	事務局次長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員					合計
実人数	常勤職員	1	1	6												8
	非常勤職員															0
常勤換算による人数		0.2	1.0	6.0												7.2

施設・事業所別 職員数一覧

令和2年3月31日現在

天橋園拠点

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	補助員				合計
実人数	常勤職員	1		2	7	17	4								31
	非常勤職員					23	1								24
常勤換算による人数		1.0		2.0	7.0	23.5	4.6								38.1

事業所名 天橋園通所介護事業所

(利用定員 25名) 介護予防・総合事業も含む・日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員								合計
実人数	常勤職員	1		1		4	3								9
	非常勤職員					2									2
常勤換算による人数		0.2		1.0		4.7	3.0								8.9

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

事業所名 ハウゼ天橋通所介護事業所

認知症対応型通所介護

(利用定員 12名) 介護予防含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員	1		1		2	1								5
	非常勤職員					2	1								3
常勤換算による人数		0.2		1.0		3.1	1.6								5.9

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

事業所名 天橋訪問介護事業所

介護予防・総合事業も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員	1				5									6
	非常勤職員					17									17
常勤換算による人数		0.2				9.5									9.7

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

事業所名			グループホーム天橋の家													
			(利用定員 9名)													
			管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員		1			1	6									8
	非常勤職員						2									2
常勤換算による人数			0.2			1.0	6.2									7.4
事業所名			天橋園居宅介護支援事業所													
			管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員					6										6
	非常勤職員															0
常勤換算による人数						6.0										6.0
※1名は管理者と兼務																

施設・事業所別 職員数一覧

令和2年3月31日現在

与謝の園拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	嘱託医	運転手			合計
実人数	常勤職員	1	2	3	5	43	5	1	3						63
	非常勤職員					14	3		6	3	1	1			28
常勤換算による人数		1.0	2.0	3.0	5.0	51.3	6.8	1.0	7.0	2.0	0.1	0.4			79.6

施設名 特別養護老人ホーム 与謝の園

(利用定員 長期 80名・短期 10名)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	嘱託医				合計
実人数	常勤職員	1	2	2	1	33	5	1	3						48
	非常勤職員					11	2		5	3	1				22
常勤換算による人数		0.5	2.0	2.0	1.0	40.1	6.1	1.0	6.5	2.0	0.1				61.3

事業所名 与謝の園通所介護事業所

(利用定員 24名) 介護予防・総合事業も含む・日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	運転手						合計
実人数	常勤職員	1		1		6									8
	非常勤職員					1	1	1	1						4
常勤換算による人数		0.2		1.0		6.5	0.6	0.5	0.4						9.2

※介護予防・総合事業との兼務は含める。

事業所名 与謝の園訪問介護事業所

介護予防・総合事業も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員	1				4									5
	非常勤職員					2									2
常勤換算による人数		0.2				4.4									4.6

※介護予防・総合事業との兼務は含める。

事業所名			与謝の園訪問入浴介護事業所						介護予防も含む							
			管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員		1				2	1								4
	非常勤職員						1									1
常勤換算による人数			0.1				0.3	0.1								0.5
※介護予防との兼務は含める。																
事業所名			与謝の園居宅介護支援事業所													
			管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員					4										4
	非常勤職員															0
常勤換算による人数						4.0										4.0
※1名は管理者と兼務																

施設・事業所別 職員数一覧

令和2年3月31日現在

天橋の郷・はまなす苑拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	言語聴覚士	管理栄養士	調理員	介護補助	その他	運転手	嘱託医	合計
実人数	常勤職員	1	2	5	1	58	6	1	1	9					84
	非常勤職員					13	3			2	9	1	2	1	31
常勤換算による人数		1.0	2.0	5.0	1.0	66.4	8.2	1.0	1.0	10.3	3.3	0.8	0.6	0.1	100.7

施設名 特別養護老人ホーム 天橋の郷

(利用定員 長期 70名・短期 20名)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	介護補助	その他	運転手	嘱託医	合計
実人数	常勤職員	1	2	2	1	43	3	1	8					61
	非常勤職員					10	2		2	6	1	1	1	23
常勤換算による人数		0.7	2.0	2.0	1.0	49.6	4.4	1.0	9.3	1.8	0.8	0.4	0.1	73.1

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名 天橋の郷通所介護事業所

(利用定員 35名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	介護補助	言語聴覚士	合計
実人数	常勤職員	1		2		7		1		1	12
	非常勤職員					1	1		2		4
常勤換算による人数		0.3		2.0		7.5	0.8	1.0	1.0	1.0	13.6

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名 Re-Style (天橋の郷通所介護事業所 サテライト)

(利用定員 15名/午前、15名/午後) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	運転手	合計
実人数	常勤職員					3	1		4
	非常勤職員					1		1	2
常勤換算による人数						3.4	1.0	0.2	4.6

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名		はまなす苑通所介護事業所												
		(利用定員 20名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業												
		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	介護補助						合計
実人数	常勤職員			1		5	2							8
	非常勤職員					1		1						2
常勤換算による人数				1.0		5.9	2.0	0.5						9.4
※介護予防・総合事業との兼務を含む。														
※生活相談員1名は管理者と兼務														

施設・事業所別 職員数一覧																		
令和2年3月31日現在																		
なぎさ苑拠点																		
		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	宿直員	清掃員・運転手	薬剤師	合計	
実人数	常勤職員	1	3	4	6	39	11	6	3	1	1	1	7				83	
	非常勤職員					7	4	1			1		5	3	2	1	24	
常勤換算による人数		1.0	3.0	4.0	6.0	43.4	13.7	6.7	3.0	1.0	1.1	1.0	9.5	1.2	1.2	0.4	96.2	
施設名 介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑																		
(利用定員 長期 100名・短期 空床利用型)																		
		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	宿直員	清掃員	薬剤師	合計	
実人数	常勤職員	1	3	4		35	11	6	3	1	1	1	7				73	
	非常勤職員					5	4	1			1		5	3	1	1	21	
常勤換算による人数		0.8	3.0	4.0		38.0	12.9	5.2	1.8	0.7	1.0	0.9	9.5	1.2	0.8	0.4	80.2	
※施設長は医師。※相談員と介護支援専門員は兼務。																		
事業所名 なぎさ苑通所リハビリ事業所																		
(利用定員 27名) 介護予防も含む・土曜日と日曜日は休業																		
		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	運転手			合計	
実人数	常勤職員	1				4	0	6	3	1	1	1					17	
	非常勤職員					2	2	1						1			6	
常勤換算による人数		0.1				5.4	0.8	0.5	1.0	0.3	0.1	0.1		0.4			8.7	
※介護予防との兼務を含む。																		
事業所名 なぎさ苑 通所型サービスC 介護予防・総合事業も含む																		
(利用定員 15名/午前、15名/午後) 介護予防・総合事業も含む・土曜日のみ事業実施																		
		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	運転手			合計	
実人数	常勤職員							6	3	1	1	1					12	
	非常勤職員						1							1			2	
常勤換算による人数																	0.0	
※介護予防・総合事業との兼務を含む。																		

事業所名			なぎさ苑 訪問リハビリ							介護予防も含む									
			管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員					合計
実人数	常勤職員	1							6	3	1								11
	非常勤職員																		0
常勤換算による人数		0.1							1.0	0.2	0.0								1.3
※介護予防との兼務を含む。																			
事業所名			なぎさ苑 居宅介護支援事業所																
			管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員										合計
実人数	常勤職員					6													6
	非常勤職員																		0
常勤換算による人数						6.0													6.0
※1名は管理者と兼務																			